

河川基金助成事業

「川は自然の宝箱」 ～わたしたちと多摩川～ 報告書

助成番号：2019 - 7212 - 014

東京都多摩市連光寺小学校

校長 棚 橋 乾

2019 年度

助成番号	助成事業名		学校名			
2019-7212-014	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～		多摩市立連光寺小学校			
校長名	棚 橋 乾	担当教諭名	松田一枝・長谷川聡也・羽澄ゆり子			
過去の助成実績	なし(あり) [助成番号：2018-7212-008 助成事業名：川は自然の宝箱～わたしたちと多摩川～]					
キーワード	ESD、環境教育、自然体験活動、アクティブラーニング、カリキュラムマネジメント					
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (4年 70 名)					
対象河川名	多摩川、大栗川	活動場所の指定状況	なし 子どもの水辺 (水辺の楽校)			
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ	自分の思いをもってかかわりを持ち、課題を追究し、伝え合い、高め・深められる学習活動の工夫					
ねらい	多摩川や地域の自然に関心をもって体験活動や問題解決学習を行うことを通して、課題追究の力を身につけると共に、地域の自然への親しみや愛着を感じながら、自分たちが自然とどのように関わり、行動することで持続可能な社会がつかれるのかを考え、実践する。					
評価の観点	ア：環境や社会の仕組みを理解する。イ：学び方を身につける。ウ：課題をつかみ、考え、判断し解決する。エ：価値を見出し、思いや考えを伝える。オ：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる。カ：協力してよりよい社会を作ろうと行動する。以上6つを観点とする。					
活動時期	通年					
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習 (理科・社会)	各教科学習 (国語)	学校行事	その他 ()	合計
上記の活動時間数	70 時間	10 時間	10 時間	時間	時間	90 時間
支援者等 (複数記入可)						
(保護者)	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	(市民団体)	(専門家等)
河川管理者	行政機関 (博物館、資料館) 等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援概要	体験活動時には保護者、多摩市水辺の楽校の方々に安全確保をお願いしている。魚類、水生生物、野鳥、植物、水質などの専門家には現場や事前事後に調査の方法や結果の解説をしていただいた。					
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位	(学年単位)	(学校全体)	一年間の調べ学習のまとめを作品制作。校内での発表会でのプレゼン資料。図工作品		
安全対策に関する課題 ・天候による野外活動の実施の可否の判断がむずかしい。・台風や集中豪雨などにより河川環境や樹林内にダメージが大きく、活動を再開するにも河床の変化や樹林内の落枝、倒木、崖崩れなどに配慮した入念な安全確認が必要となる。 ・6 月末より 9 月末までは野外の気温が異常に高く、熱中症の危険が大きいいため活動が制限された。近隣の学校に緊急避難場所を確保したりするなどの対応をお願いした。次年度は現場での日除け、給水なども必要。						
活動の成果と今後の課題・展開						
成果：地域での体験活動を意識した問題解決学習を進めることで、児童が仲間と協力しながら課題を解決する姿を多く引き出し、地域への愛着や地域の一員としての自覚を持つことができた。体験を通して学んだことや自力で解決したことからの理解は深いと思われる。総合的な学習の時間を楽しいと感じ、児童自ら次の課題を見つけ意欲的に取り組む児童も多かった。 課題：社会の課題に対して、自分事として行動にまで結びつけて活動していくことが、高学年になるほど難しくなってくる。より高いゴールを目指して人・自然・社会に関心をもって意欲的に関わり、協力してよりよい社会をつくらうとする行動につながる主体的な学びが展開できるように活動の工夫が必要と考える。						
活動内容と実施時期 (主な活動を 2 つのみ記入)						
データベースに登録する活動分野	部門	大分類	中分類		小分類	実施時期、
	学校部門	教育活動	生物調査	系	生き物と環境	4～10 月
			教育研究	系	河川環境教育	4～3 月

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	学校名	多摩市立連光寺小学校	助成番号	2019-7212 014
2.単元名	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～				
3.目標	多摩川の自然に関心を持って体験活動や問題解決学習を行うことを通して、課題追究の力を身につけるとともに、地域の自然への親しみや愛着を感じながら、自分たちがどのように行動し持続可能な社会をつくるか考える。				
4.実施学年 人数	4年生 72名				
5.場所	主に 多摩川中流域 関戸橋～大栗川合流点付近 見学：御岳溪谷、羽村取水堰、大師河原干潟館と干潟、虹の下水道館				

6.単元構想(総時間数) 70時間(+20時間)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
4学年単元目標	多摩川で「発見」や「はてな」をみつけよう(20) 多摩川での様々な共通体験活動を通して、豊かな自然を肌で感じ、興味・関心を深める。問題解決学習の学び方や専門家の方々との関わり方をつかむ			多摩川博士になろう(30+) ・多摩川に対する視野を広げる。・1学期の活動で見つけた「はてな」を課題として追究していく。調査計画をたて、仲間と協力して活動する。・調べたことやわかったことを仲間に伝えあい情報を共有化して考えを深め、さらに課題を追究していく。・探究活動の成果をまとめ自分なりの考えを発表する。				多摩川とわたしたち(20+) これまでの学習でつかんだことをもとに、これからの多摩川と自分や地域の関わり方を考え、行動・発信する。				
主な学習活動	流れをたどってみよう(7) ・多摩川の赤ちゃん探し。学校近くの湧水から地域の流れをたどり多摩川とつながることをたしかめる。 ・春の多摩川の観察をおこない、これからの学習計画を考える。	川の生き物観察 共通体験Ⅰ(5) ・川原の観察、ガサガサ体験を行い、多摩川の生き物、環境の調べ方を教わり、発見、疑問を見つける。 ・ふりかえりで発見や疑問や考えをまとめ、気づきを共有して、次につなぐ。	川の生き物観察 共通体験Ⅱ(8) ・水質、野鳥、植物の観察を行う。 ・川の調べ方を教わりながら、様々な生き物とであい、川のことを知る。 ・ふりかえりを行い、疑問や調べたいことの整理を行い、各自の課題を決定する。	社会科見学Ⅰ ・多摩川の下流域、河口干潟を見学 ・虹の下水道館見学で自分たちの使った水のゆくえを考える。	課題別調査体験Ⅰ(9) ・自分の課題を追究するための調査の計画を立てる。 ・課題毎にグループで調査を行う。 ・調査でわかったことをまとめ、仲間と情報を交換してあらたな課題を立てて次回の調査にむけて考える、準備する。	課題別調査体験Ⅱ(7) ・これまでの学習でわかったことやさらに調べたいことを整理して、次の調査計画をたてる。 ・課題毎にグループで調査を行う。 ・調査でわかったことをまとめ、仲間と情報を共有し、考えを深める。	調べ学習・まとめの活動(14) ・保護者やこれまでお世話になった専門家の方々を招いて、発表会を行う。 ・自分の考えを発表仕合い、友達の意見を聞くことで考えを広げたり、深めたりする。	発表会を開く(6) ・これまでの学習でわかったことやさらに調べたいことを整理し、図書資料、インターネット資料、専門家に聞くなどしてさらに追究する。 ・まとめの作品づくりをおこなう。 ・作品をもとに学年内の発表会を行う	多摩川みらい会議を開く(10) ・これからの多摩川がどうなってほしいか、自分たちはどのようにかかわりたいかはなしあい、できることやしたいことを決める。 ・やりたいことを実行するための計画作りと準備 ・実行に移す。	発表会を開く(4) ・生活科・総合的な時間の学習発表会として、他学年の児童、地域、保護者に向けて発表する。 ・発表会をふりかえり1年間のまとめと考えをまとめる。	社会科：「風水害から人々を守る」台風19号の時の多摩川の氾濫の様子や過去の水害から学び、多摩川の未来についてさらに考えを深める。	
評価項目	ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ①多摩川の自然に関心を持ち、自分から進んで体験や観察・調査の活動に取り組むことができる。 イ：課題を見つめ解決する力 ①体験や調査を通して気づきや疑問を明確にして、あらたな課題に気付くことができる。 ウ：他者と協力し、活動する力 ②活動を振り返り、自分や友達の良さに気付くことができる。		ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ①多摩川の自然に関心を持ち、自分から進んで体験や観察・調査の活動に取り組むことができる。		ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ②多摩川の自然や人間の関わりに対して、意欲的に課題追究することができる。 イ：課題を見つめ解決する力 ①体験や調査を通して気づきや疑問を明確にしたあらたな課題に気付くことができる。 ②簡単な計画を立て、見通しを持ちながら追究することができる。 ③観察や調査をしたり、資料を調べたりして、必要な情報を収集することができる。 ウ：他者と協力し、活動する力 ①自分なりの考えをもち、同じグループの仲間と話し合い協力して活動することができる。 ②活動を振り返り、自分や友達の良さに気付くことができる。 ③地域の専門家の方々積極的に関わりながら課題追究を進めることができる。		イ：課題を見つめ解決する力 ②簡単な計画を立て、見通しを持ちながら追究することができる。 ③観察や調査をしたり、資料を調べたりして、必要な情報を収集することができる。 ウ：他者と協力し、活動する力 ②活動を振り返り、自分や友達の良さに気付くことができる。 エ：自分の思いや考えを伝える力 ①相手にわかるように表現方法を工夫し、調べたことや自分の考えを伝えることができる。		ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ・多摩川の自然や人間の関わりに対して、意欲的に課題追究することができる。 イ：課題を見つめ解決する力 ・体験や調査を通して気づきや疑問を明確にしたあらたな課題に気付くことができる。・観察や調査をしたり、資料を調べたりして、必要な情報を収集することができる。 ウ：他者と協力し、活動する力 ・自分なりの考えをもち、同じグループの仲間と話し合い協力して活動することができる。・地域の専門家の方々積極的に関わりながら課題追究を進めることができる。 エ：自分の思いや考えを伝える力 ・相手にわかるように表現方法を工夫し、調べたことや自分の考えを伝えることができる。・活動を通して考えたことや調べたことを伝え合い、自分の考えを深めることができる。③多摩川の生態系や多様性に気づき、自分と自然の関わりを考えることができる			

アドバンス 活動報告書


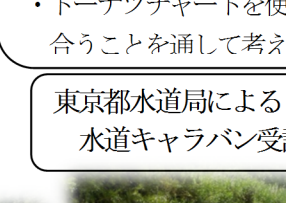
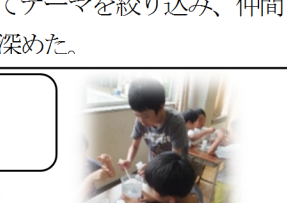




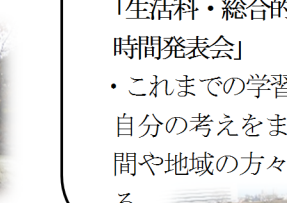
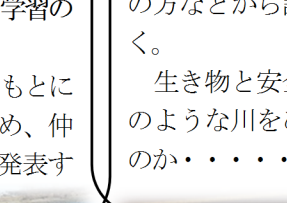
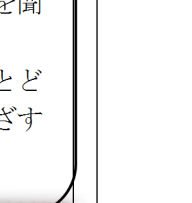
1.助成事業名	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～		学校名	多摩市立連光寺小学校		助成番号	2019-7212- 014					
2.単元名	連光寺 SATOYAMA (里川・里山) プロジェクト											
3.目標	<ul style="list-style-type: none"> ・4年時の多摩川での学習をもとに、地域の雑木林や谷戸田とそこを流れる水路を含む里山で仲間や専門家、地域の方々と体験活動を通して、課題探求の力をつけると共に、自然と共生する「SATOYAMA」の価値や地域の良さに気づき、これからの自分が地域の自然とどのように関わり行動するか考え、行動していく。 ・理科、社会科の関連単元において多摩川を教材として用い、4年次の多摩川の学習成果を活かして、より実感のある学びとする。 											
4.実施学年 人数	5年生 71名											
5.場所	多摩川中流域、多摩市連光寺地域、森林総合研究所連光寺実験林、都立桜ヶ丘公園、大谷戸公園など											
6.単元構想 (総時間数)	70時間											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
5学年・単元目標	森林調査隊 (23時間)			SATOYAMA 博士になろう(25+時間)				SATOYAMA から未来を考えよう (22+時間)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の森林の様子を探ったり、保全活動をしている方々と交流したりして、愛着を持ちながら自分の課題をさぐる。 ・4年次の多摩川での学習経験から、雑木林が育む「水」について気づくことをねらいながら活動する。 			1学期の里山での共通体験から、自分が深く知りたいテーマを設定しそれを追求していく。谷戸田での農作業体験や観察、地域の人々との交流を通して地域の自然の価値に気づき、これからの自分と自然とのかかわりを考える。特に谷戸田は水辺環境として良好な自然が残されている場所であることから、4年生の河川学習を元にさらに学習を深めたい				<ul style="list-style-type: none"> ・調査したり、資料で調べたりしたことをもとにまとめの作品を作成し、それをもとに、保護者、地域の方々に発信し交流する。交流を通してお互いの共通点や相違点を見出して考えを深める。 ・1年間を振り返り、地域の里山の価値に気づき、人と自然の共生について考え、自分なりの意見を持つ。 				
主な学習活動	<音楽・図工> (四季) 森を感じ、音と色で表現しよう。		<社会> 単元名：わたしたちの生活と食料生産 ・これからの食料生産とわたしたち ・食料生産と環境		<理科> 単元名：天気と情報 (2) 台風と気候の変化 単元名：流れる水の働き							
	・森へようこそ (3時間) 近くの竹林で、保全の活動の一環としてのタケノコ掘り体験。 ・森林ウォークラリー (6時間) 高尾森林科学園に行き、森のみかたや調査の仕方を学ぶ。川の上流の様子を観察する。(浅川の上流部)	森を知る探究活動Ⅰ (8時間) ・探究課題を決める。 ・類似課題のグループを作り調査活動の計画を立てる。 ・計画を専門家や地域の方に見てもらい計画を修正。 ・計画を元に探究活動。 ・わかったこと、疑問に思ったことを交流し、考	谷戸田での活動 (6時間) ・田起こし作業を通して谷戸の自然を体感する。 ・田植え作業を通じ田んぼにとっての水の重要性を感じる。 ・稲の生長と田んぼの生き物観察 良好な水辺環境としての谷戸田を感じる。	集団宿泊 八ヶ岳で林業体験として間伐作業を行う。	理科 ・天気と情報：台風による河川の増水とその被害などについて、多摩川の増水時の様子を観察する。	森を知るⅡ・Ⅲ (19時間) 各自が課題を設定し、追求する活動。 ・各自の課題に沿った活動を行う。 ・課題を追求するために課題別のいくつかのグループにわけ活動。 ・課題に対応できる、専門家の方をできる範囲で支援してもらえるようにし	谷戸田(6時間) ・田んぼの観察 ・稲刈り ・脱穀 ・籾すり、精米 ・収穫祭・(調理、試食)	まとめの活動(14時間) ・各自の課題についてこれまでの活動の記録、本、インターネットなどを使ってまとめ、作品をつくる。 ・発表会を行う。	理科 ・流れる水の働き：4年次の多摩川での学習を振り返り石や流れの様子を考える。	社会科 ・私たちの生活と森林：多摩川源流の水涵養林について学ぶ。 ・環境をまもる：様々な環境を守る活動を学ぶ。 ・自然災害：自然と人間の生活との間の問題を考える。多摩川の洪水ハザードマップなどを用い身近な問題として防災をかんがえる。	まとめ・発表(6時間) ・さらに全体でまとめを行い、地域の自然についての考えを深める。 ・地域の環境に関する提言書を作成し、実行が可能なものについては行動につなげていきたい。	
評価項目	ア 人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ① 仲間と共同し、主体的に雑木林体験や谷戸田での農作業や観察を行う。 イ 課題を見つめ、判断して解決する力 ① 森林ウォークラリー体験や谷戸田での活動を通して、自分のテーマを持ち、計画を立てて調べる。			ア 人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ① 里山で活動する地域の人との交流活動を積極的に行う。 イ 課題を見つめ、解決する力 ① 森林ウォークラリー体験や谷戸田での活動を通して、自分のテーマを持ち、計画を立てて調べる。 ウ 他者と協力し、活動する力 ① 仲間と協力して作業を行ったり、話し合いを通して考えを深めたりする。				ア 人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力 ① 里山で活動する地域の人との交流活動を積極的に行う。 イ 課題を見つめ、解決する力 ① 調査活動、情報共有を通して、里山に対して自分たちにできることを考える。 ウ 他者と協力し、活動する力 ① 仲間と協力して作業を行ったり、話し合いを通して考えを深めたりする。 ② 友達との伝え合いを通して自分の考えや友達の考えの良さに気付く。 エ 自分の思いや考えを伝える力 ① 活動の様子や自分たちの考えを整理・分析してまとめ、仲間や地域の人に分かりやすく伝える。 ② Web 交流で連光寺里山の良さを自分の言葉で表現する。				

アドバンス 活動報告書

1.助成事名	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～							学校名	多摩市立 連光寺小学校			助成番号	2019-7212 014		
--------	---------------------	--	--	--	--	--	--	-----	-------------	--	--	------	---------------	--	--

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

4 学 年	多摩川で「発見」や「はてな」をみつけよう (20)				多摩川博士になろう (30)					多摩川とわたしたち (20)									
	多摩川での様々な共通体験活動を通して、豊かな自然を肌で感じ、興味・関心を深める				1学期の活動で見つけた「はてな」を課題として追究していく。調査計画をたて、仲間と協力して活動する。調べたことやわかったことを仲間に伝えあい情報を共有化して考えを深め、さらに課題を追究していく。探究活動の成果をまとめ自分なりの考えを発表する。					これまでの学習でつかんだことをもとに、これからの多摩川と自分や地域の関わり方を考え、行動・発信する。									
流れをたどってみよう 4月【出会う】 ・オリエンテーション ・「多摩川の赤ちゃん探し」地域と多摩川のつながりをさぐる。		7月【共通体験Ⅰ】 「川原の観察」「ガサガサ体験」体験		7月【共通体験Ⅱ】 水質、野鳥、植物の調査体験。 ・雨天時は専門家の方に調査方法や川のみかたをレクチャーしてもらう。		社会科見学Ⅰ ・多摩川の下流域、大師河原の干潟見学 ・虹の下水道館見学：自分たちの使った水の行方を知る。		9月【テーマ別調査】 ・テーマを決める ・現地調査Ⅰ ・荒天続きのため、ゲストティーチャーによるテーマ別レクチャー 9月【調べ学習】 ・図書資料等を活用し、疑問に思ったことを調べる。 ・2回目の現地調査の準備		10月【テーマ別調査】 ・テーマ別現地調査 ・現地調査のふりかえりとまとめ 10月【調べ学習】 ・図書資料等を活用したり、専門家の方に聞いたりを調べる。 ・まとめの計画を立てる。		社会科見学Ⅱ ・多摩川の上流域、御嶽溪谷を見学 台風15号・19号の影響で水害の被害も見学 ・羽村取水堰と資料館見学 多摩川の歴史と玉川上水の学習。治水についても考える。		11月～12月【まとめ作品作り】 12月【報告会】 ・調べたことを作品にまとめる。 ・学年内で発表会 連光寺版「のはら歌」の作成		「多摩川未来会議」 これからの多摩川の姿を考え自分たちにできることを考えて、実践する。 ・ゴミ拾いにいこう。特にプラスチックゴミについて、考えよう。実際にゴミ拾いに行き、拾ったゴミの種類を分析し発表した。「生活科・総合的な学習の時間発表会」 ・これまでの学習をもとに自分の考えをまとめ、仲間や地域の方々に発表する		2月～ 社会科「自然災害から人々を守る活動」 多摩市の防災について学習 特に台風19号多摩川の洪水を教材にして。水害の歴史、ハザードマップ、市の防災安全課の方、自治会の方などから話を聞く。 生き物と安全とどのような川をめざすのか・・・？	

8.成果と課題

成果

①ポートフォリオ評価について：・理論と実践を結びつけることができた。これまでおこなってきた、指導者による机間巡視やアドバイスや児童同士の話し合いの時間をポートフォリオ評価と位置付けることで、指導のねらいが明確になった。
 ・これまでの活動を振り返る時間をもつことで、次の活動が深まった。作品作りも、調べ学習をまとめたものだけでなく、これまでの活動全体からまとめたものや、多摩川の魅力や自分のつかんだことを新たに再構成するようなものがみられた。

②年間の指導について：・学習の進行を児童中心にしたり、次の活動についてどう考えるか児童に問いかけ続けたりしたことにより、総合的な学習の時間は自分たちで考え進めると意識を持たせることができた。
 ・多摩川未来会議（多摩川の未来を考えるために、自分たちにできることを考え実行する）を12月末からおこなった。その後、海洋プラスチックの問題にまで触れる時間はでき、SDGsにつなげることができた。そのことは、現代のリアルな課題に向き合い自分たちのこととして考えることにつながった。また、「生活科・総合的な学習の時間の発表会」での発表内容がバラエティー豊かなものになった。

③6つの能力・態度：・ポートフォリオを活用することを意識した結果、児童が学習をふりかえり、これまでの学習を通して考える学習が身についた。考えを表現する力を伸ばす要因になっている。
 ・多摩川未来会議を12月末から行ったことにより、川のゴミ拾いがゴールになるのではなく、そこから海洋プラスチックの問題など新たな課題を見つめることにつながった。ア・カ

課題

①ポートフォリオ評価を幅広く活用するためには、経験を積むことが必要：・学習展開のどの場面で行うと効果的なのか意識し、計画したり実践を行ったりする。・日常的に行うことができるようにするためにも、ポートフォリオ評価を行うねらいを共有し、指導者間の連携をつくることが大切。 ②年間の指導について、活動場所や方法について検討が必要：・台風や工事に伴い、多摩川の状況が変化している。前年と同じ活動を行うことを繰り返すのではなく、状況に応じた活動を計画することで、様々な学習活動の事例を積み重ねていく事が、持続可能な多摩川学習につながると思う。 ③6つの能力・態度：・問題解決学習を繰り返すことで、どの力も伸びてきたが、社会の課題を自分のこととして考え行動する点においては、まだ十分といえない日常生活の様子がみられる。 ④3学期の最後3月が新型コロナウイルスによる休校措置で授業が行えなかったため、最後の締めくくりが十分にできなかった。次年度へのつながりに工夫が必要。また、今年初めての取り組みとして社会科の単元で防災に関する展開を試みたが、これも途中で終わってしまい、次年度再挑戦したい。

1.助成事業名	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	学校名	多摩市立連光寺小学校	助成番号	2019-7212 014
---------	---------------------	-----	------------	------	---------------

7.実際にいった単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	連光寺 SATOYAMA 調査体 (23時間)				連光寺 SATOYAMA 博士になろう(25時間)				SATOYAMA から未来を考えよう (20時間)			
5 学 年	<p>体験活動を通して里山に対して関心を持つ。里山について自分のイメージを持ち、追求していく課題を意識する。 4年次の多摩川での学習経験から、雑木林が育む「水」について気づくことをねらいながら活動する。</p>				<p>1学期の里山での共通体験から、自分が深く知りたいテーマを設定しそれを追求していく。谷戸田での農作業体験や観察、地域の人々との交流を通して地域の自然の価値に気づき、これからの自分と自然とのかかわりを考える。特に谷戸田は水辺環境として良好な自然が残されている場所であることから、4年生の河川学習を元にさらに学習を深めた。</p>				<p>・調査したり、資料で調べたりしたことをもとにまとめた作品を作成し、それをもとに、保護者、地域の方々、さらには他校にも発信し交流する。 交流を通してお互いの共通点や相違点を見出して考えを深める。 ・1年間を振り返り、地域の里山の価値に気づき、人と自然の共生について考え、自分なりの意見を持つ。</p>			
	<p>・森へようこそ (3時間) 近くの竹林で、雑木林保全活動の一環としてのタケノコ掘り体験。 ・森林ウォークラリー(6時間) 高尾森林科学園に行き、森のみかたや調査の仕方を学ぶ。 川の上流の様子を観察する。(浅川の上流部)</p>	<p>谷戸田での活動(6時間) ・田起こし 作業を通して谷戸の自然を体感する。 ・田植え 作業を通じ田んぼにとっての水の重要性を感じる。 ・稲の生長と田んぼの生き物観察 良好な水辺環境としての谷戸田を感じる。</p>	<p>理科 ・流れる水の働き: 4年次の多摩川での学習を振り返り石や流れの様子を考える。 ・流れを作って水</p>	<p>森を知るⅢ・Ⅳ(8時間) 各自が課題を設定し、追求する活動。 ・各自の課題に沿った活動を行う。 ・課題を追求するために課題別のいくつかのグループにわけ活動。 ・課題に対応できる、専門家の方をできる範囲で支援してもらえるようにした。 今年度はテーマに森の中の土について追究したグループができた。水を育む森林土壌について調べ、水質や森の保水力について探究した。</p>	<p>理科 ・天気と情報:台風による河川の増水とその被害などについて、多摩川の増水時の様子を観察する。</p>	<p>谷戸田 (7時間) ・田んぼの観察 ・稲刈り ・脱穀 ・粃すり、精米 ・収穫祭・(調理、試食)</p>	<p>まとめの活動(12時間) ・各自の課題についてこれまでの活動の記録、本、インターネットなどを使ってまとめ、作品をつくる。 ・学年内で発表会を行った</p>	<p>社会科 ・私たちの生活と森林:多摩川源流の水源地涵養林について学ぶ。 ・環境をまもる:様々な環境を守る活動を学ぶ。 ・自然災害:自然と人間の生活との間の問題を考える。多摩川の洪水ハザードマップなどを活用し身近な問題として防災をかんがえる。</p>	<p>まとめ・発表(6時間) ・一年間の里山での活動を振り返り、さらに全体でまとめを行い、地域の自然についての考えを深める。 「生活科・総合的な学習の時間発表会」 ・これまでの学習をもとに自分の考えをまとめ、仲間や地域の方々に発表する。</p>			
	<p>森を感じる(図工・音楽) 谷戸田や桜ヶ丘公園を巡り、匂い、音、温度など見えないものを五感で感じて表現する。</p>					<p>森を感じる(図工・音楽) 谷戸田や桜ヶ丘公園を巡り、匂い、音、温度など見えないものを五感で感じて表現する。</p>						

8.成果と課題

成果：○調査したことや教えてもらったことなどを分かりやすく仲間に伝えることができるようになった。○特に森の中の土をテーマに取り組んだ児童グループがいたことは興味深かった。土が森の中の水と大きな関係があることに気づいていく思考の過程は4年次の学習が生きていたことを実感した。○身に付けさせたい力を意識しながら単元を計画したり、入れ替えたりしたことで、思考する力や探究する力、里山に対する基本的な知識が身に付いた。○理科・社会の単元で多摩川を教材として実感を伴う授業を行うことができた。○「連光寺 SATOYAMA プロジェクト」の全体を通して、環境を考えるための学習活動として展開することができた。また、他教科や行事との結びつきが「環境を守る」という観点で精選された。○様々な体験や学習を通して地域の自然への愛着が高まり、普段当たり前だと思っていた地域の環境の良さに気づき、「この自然を未来にも残したい」「自然をまもっていききたい」と言葉に表し意識するようになった。

課題：
 ●「〇〇したい」という思いはもっているが、それを解決するための手立てや計画を立てることが苦手。
 ●理科・社会との関連で教科関連事項を整理して、より教材化を進めたい。
 ●自ら課題を見出すことはできたが、主体的な探究へつなげる道筋を明確にしていく必要がある。
 ●児童が主体的に取り組めるフィールド環境の確保、プログラムの構築をよりいっそう進めていこうしていきたい。
 ●用意したものではなく、児童が主体的に取り組めるプログラムにしていく必要がある。
 ●3月がコロナウイルスの影響で使えなかったため、学習のまとめが十分に行えなかった。次年度につなげていく工夫が必要。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212-014	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 棚橋 乾



フィールド：桜ヶ丘公園のわき水

日付：2019.4.11

コメント：「多摩川の赤ちゃん探し」として学校近くの公園のわき水から、川たどりを始める。地域と多摩川のつながりに気づいて、関心を高め、多摩川学習の計画をたてる。今回は4回に分けて実施した。



フィールド：支流の大栗川と多摩川の合流点交通公園

日付：2019.5.9

コメント：川たどりをしていたどり着いた先が多摩川となりました。春の多摩川の様子を観察し、帰ってから今後の多摩川での学習の課題を考え、計画を立てます。



フィールド：多摩川支流大栗川（合流点付近）

日付：2019.6.3

コメント：川での共通体験。1回目は河原の観察とガサガサ体験を行った。川の中での活動が初めての児童もおり、安全面も指導する。多くの発見や疑問を帰ってから整理し、次の活動につなげることができた。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212-014	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 棚橋 乾



フィールド：多摩川支流大栗川

日付：2019.6.17

コメント：2回目の共通体験。川を調べる視点を専門家の方に教えてもらいながら体験。今回は水生生物、石、植物など。



フィールド：連光寺小学校

日付：2019.6.9

コメント：予定していたフィールド活動が雨でできなかつたときは、フィールドで指導してくれるはずだった専門家の方に来校いただき、レクチャーしてもらうことも。この日は植物と水質の話をしてもらう。



フィールド：大師河原干潟館、虹の下水道館

日付：2019.7.3

コメント：7月に入るとフィールドの活動は熱中症の危険があり、困難な状況の近年、例年秋に行っていた社会科見学を7月に行うこととした。

多摩川下流の大師河原干潟で体験活動を行い、日頃見ている中流域との景観や生き物の違いを観察する。

この後、有明の虹の下水道館に立ち寄り、自分たちの使った水の行方について知り、考える機会を得た。

今後の学習にいかせるように、まとめをしっかりと行なった。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212-014	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 棚橋 乾



フィールド：多摩川、大栗川合流点付近

日付：2019.9～2019.10

コメント：1学期の活動をふりかえり、2学期には各自のテーマを追究していく活動を行なった。テーマは魚、水生生物、石、野鳥、植物、水質、流れ、音など。課題別にグループを作り協力しながら計画を立てて現地活動を行なった。



フィールド：御岳溪谷、羽村取水堰

日付：2019.11.26

コメント：2回目の社会科見学で多摩川の上流を見学に行った。台風19号の影響でかなり制約が多かったが、台風により橋が流されてしまうほどの水の力を目の当たりにすることができた。また、羽村取水堰の見学では昔の人々の多摩川との闘い(治水事業)も含め上水についても学ぶことができた。



フィールド：連光寺小学校

日付：2020.1

コメント：2学期に行なった探究活動を12月までに作品にまとめ、12月には学年内で発表会を開き、情報を共有した。3学期はそれらを踏まえ、これからの多摩川について「多摩川未来会議」と称して話し合いを行なった。どのような多摩川になってほしいか、そのためには何ができるか、行動計画を考えた。

注) 写真は5～6枚程度(枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212-014	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 棚橋 乾



フィールド：連光寺小学校

日付：2020.2

コメント：多摩川未来会議で未来の多摩川の姿を考えグループで絵に描いた。このときの話し合いで、多摩川の問題点を考え、それを解決するために自分たちにできることを考えた結果、ポスター作りや川の清掃があげられた。中でも、ゴミの問題ではマイクロプラスチックの問題について考える子どもがいた。



フィールド：多摩川関戸橋下流の河川敷

日付：2020.1.31、2020.2.

コメント：未来会議で決まったゴミ拾い活動。

全員で30分程度の活動で45リットルゴミ袋10袋以上を拾った。台風19号の爪痕が残っていることもあつてか見た目より多い印象だった。

拾ったゴミは学校に持ち帰り、後日仕分けを行なった。その結果はやはり、プラスチックやビニール製品が全体の8割以上を占めていた。



フィールド：連光寺小学校

日付：2020.2.22

コメント：学校行事の「生活科・総合的な学習の時間発表会」(連光寺自然環境展)にて他学年の児童や地域の人々に向けて発表した。

(数ページになってもかまいません。)

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212-014	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 棚橋 乾



フィールド：連光寺小学校

日付：2020.2～

コメント：総合的な学習の時間と並行して社会科の授業で「風水害から人々を守る」という単元名で防災の授業のカリキュラムを組み立てて実施した。今年秋の台風19号の体験から多摩川の過去の水害や羽村の取水堰の見学の記録等と合わせて「安全な川」についても考えることができた。残念ながら3月からの休校措置で最後まで授業を進めることができなかったが、次年度につなげていければと考えている。



フィールド：

日付：

コメント：



フィールド：高尾多摩森林科学園

日付：2019.5.10

コメント：ここからは5年生の活動について

川の始まりである「森」について5年生は学習を進めるが、これまでの4年生の学習のつながりとして多摩川支流浅川の上流部にあたる森林科学園の森をフィールドとして選んだ。

ここで、森のみかたや調査の方法について学ぶことを目的とする。

注) 写真は5～6枚程度(枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212-014	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 棚橋 乾



フィールド：高尾森林科学園

日付：2019.5.10

コメント：浅川の源流域となっている。子どもたちは森を歩いているだけでも、小さな水の流れを見つけると自然と観察している姿が印象的だった。



フィールド：都立桜ヶ丘公園内の谷戸田

日付：2019.4～2019.12

コメント：学校から歩いて3分の景観保全のために作られた田んぼで約半年地域のボランティアの方々力を借りて米作り体験を行なう。この谷戸田は全て周辺の雑木林からのわき水で潤い、通年湛水する泥田である。農薬や施肥を行なわないため、希少な動植物の宝庫となっている。貴重な自然環境とそれを支える水の大切さを実感する体験活動である。12月には収穫祭を行なう。



フィールド：都立桜ヶ丘公園周辺

日付：2019.4～2020.2

コメント：米作りを行なう谷戸田だけでなく、周辺の雑木林なども含めて連光寺の里山をフィールドに自然環境の探究活動を行なう。

注) 写真は5～6枚程度 (枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212-014	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 棚橋 乾



フィールド：連光寺小学校

日付：2019.11

コメント：理科の流れる水のはたらきの単元で、4年生での多摩川での活動をふりかえりながら映像やデータをもとに授業を進めることで実感を伴った授業展開ができた。特に今年度は台風19号の前と後の多摩川の状況を映像で見ることで水の力を理解することができた。



フィールド：連光寺小学校

日付：2020.2.22

コメント：学校行事の「生活科・総合的な学習の時間発表会」(連光寺自然環境展)にて他学年の児童や地域の人々に向けて発表した。地域の自然から始まり、世界の環境問題にまで発展させて考えるきっかけをつかむことができた。



フィールド：桜ヶ丘公園など学校周辺の里山

日付：1年間を通して。作品制作は3学期

コメント：里山の四季を通してのイメージを絵に表した作品。多くの子どもたちの作品に水のイメージが描き込まれている。地域の自然の構成要素として「水」がイメージとして定着していることが感じられる。

注) 写真は5～6枚程度(枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

平成31年度 研究紀要
(令和元年度)

研究主題

校内研究テーマ

「教育課程全体で取り組むE S Dの実践と教育活動の工夫」

～ 生活科・総合的な学習の時間を軸とした
連光寺カリキュラム・マネジメント ～



多摩市立連光寺小学校

I 研究の概要

1 研究主題

教育課程全体で取り組む ESD の実践と教育活動の工夫 ～生活科・総合的な学習の時間を軸とした 連光寺カリキュラム・マネジメント～

2 主題設定の理由

多摩市立連光寺小学校では平成 22 年度より、ユネスコが推進する ESD (Education For Sustainable Development) をベースに研究を進めている。ESD に着目したのは、それまで行ってきた連光寺小学校の特色ある教育活動と、ESD で求められているものに共通点が多かったことにある。本校では、平成 19 年までの間 10 年近く、地域の特色を生活科や総合的な学習の時間の中で生かすための研究を進めてきた。その中で、地域の施設や人々と連携した学習活動を確立してきたが、この研究を ESD へ発展させることが、本校の特色ある教育活動の充実につながると考えたからである。

ESD の研究を進める中で、いくつかの成果を得ることができた。これまでの学習活動を「地域を学ぶ」学習から「地域で学び、生かす」学習と捉え直すことで、地域にとどまらない広い視野をもつことができた。また、総合的な学習の時間の評価基準であった育てたい力(4つの力)とESDで育てる力の関連を整理し、さらに6年間の連続した学びの中で持続可能な社会の担い手を育てるために、学年ごとの児童の育つ姿を明確にした「育ちの地図」を作成することができた。こうした視点を重視しながら「教科・地域・育てたい力」とのつながりを考えた学習活動を行い、研究を進める中で地域との結びつきを一層深いものにし、6年間を通した連光寺小学校の生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムをつくりあげてきた。平成25年度は東京都教育委員会言語能力向上推進校、26年度は東京都教育委員会言語能力向上拠点校として研究に取り組み、ESDを支える言語活動の充実を図る中で、現在の連光寺小学校のホールスクールが確立されてきた。

さらに、平成29年度と30年度年度は「東京都教育委員会 持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」「多摩市公立学校研究奨励校」の研究指定を受け、ESDの推進校としての一層の責務を担うこととなり、より一層、現代の課題に合った内容にしていくことが必要となった。また、令和2年度より全面実施される新学習指導要領と、研究の方向性を結び付ける必要性があると考えた。新学習指導要領で示された、「持続可能な社会の創り手」を育てるための能力・態度とのつながりや、カリキュラム・マネジメントの充実、アクティブラーニングによる授業改善を行うことで、生きる力を育む特色ある教育活動の展開を進めていきたいと考えた。

以上のことから、これまで以上に連光寺ESDの充実を図るため、研究テーマ及びサブテーマを設定した。また、昨年このテーマで研究を進める中で、「どのように児童の育ちを見取るのか」ということが課題として挙げられた。今年度は、教育活動の工夫を行ないながら「評価」についても研究していく。

中学年分科会

1 分科会テーマ

自分の想いをもち、かかわりをもち、問題を追究する児童を育む学習活動の工夫

2 テーマ設定の理由

連光寺小学校は、周囲を公園や里山の樹木に囲まれ、四季の移り変わりを実感できる恵まれた環境にある。こうした環境を活用し、低学年では生活科などで自然に親しむ活動を行ってきた。また、近隣の幼稚園や施設などで、園児や高齢者との交流など人とのかかわりも盛んに行ってきた。こうした地域環境を活用して、自然や社会や人などに進んでかかわりをもち、意欲的に活動に取り組む力を身につけてきた。

そこで中学年では、低学年で身につけた力をもとに、地域を知るだけでなく、自らが地域の一員としての自覚をもち、地域に深い愛着をもってほしいとの願いをもって活動を計画し、問題解決の学習方法を身につけていく。

児童は、専門家や地域の人に色々なことを教わったり、一緒に活動したりすることにはとても意欲的に取り組んでおり、地域や自然に対する関心も広がっている。しかし、「自分の問題」として捉えている児童が少なく、「与えられた課題」として学習を進めている児童も少なくない。自然や人とのかかわりの中から自分なりの想いや問題をもち、その解決に向けて能動的に対象とのかかわりを深めることが持続可能な未来をつくる力ではないかと考えた。また、問題を追究するためには個人だけでは限界がある。他者との協力の中で高まることに気づかせたい。

よって、中学年分科会では、以下の3つの観点についての能力を育成することが大切であると考えた。

- ①様々な体験から自分の想いをもち、「自分の問題」を設定する。
- ②自然や社会、友達とかかわりながら活動し、問題を解決する方法を学ぶ。
- ③体験を通して学んだ知識や人々の生き方や考え方を自分の生活に生かそうとする態度や自分の考えを相手に伝える。

以上のことから中学年のテーマを設定した。

第4学年 総合的な学習の時間 学習活動案

令和元年10月9日(水) 5校時

多摩市立連光寺小学校

4年1組 35名

授業者 T1 松田 一枝

T2 長谷川 時聡

T3 羽澄 ゆり子

1 単元名

「川は自然の宝箱」

2 単元について

(1) 単元の捉え方

本単元では、地域の自然を学ぶ場として、多摩川やその支流である大栗川を取り上げている。川には様々な生き物が存在し、それらが互いにつながり合っ​​て生態系を構成している。児童にとって発見や疑問の尽きない、自然という学習材の宝庫ともいえる場所である。学習を行う前の児童は、地域を流れる川の存在は認識しているものの、直接川の自然に触れる経験は少ない。児童は、多摩川での体験活動を通して川のもつダイナミックな自然を体感することで、自然の魅力を実感するとともに、興味や関心に沿った問題解決学習を豊かに行っていくことができると考えている。

多摩川の教材としての魅力は、自然にあるだけではなく、多摩川を活動の場とする地域の方々や専門家の方々の存在によるところも大きい。川や生き物の魅力、調査の方法を伝授してもらったり、児童の安全な活動を見守っていただいたりしている。さらに、多摩川のかかえる課題も示唆してもらえる。このことは、ESDの視点から環境を考える時に欠かすことはできない。自分がどのように川と関わっていくのか考えるためには、地域の方々と直接関わり、声を聞くことは重要である。

また、様々な教科と関わることも多摩川学習の特徴である。特に社会科とのつながりは大きい。総合的な学習の時間がスタートしたころより、本校で4年生が多摩川を取り上げているのは、「くらしをささえる水」という単元との関りによる。人間のくらしに欠かせない上水、下水の学習と多摩川の学びを重ねながら「水の循環」について深く考えていくことは、持続可能な社会を考える姿勢を育てることにつながる。それは、次の学年へとESDを発展させていくための基礎を育成していくことになる。こうしたカリキュラム・マネジメントは、どの教科の中でも考えることができ、多摩川は、まさに「学習材の宝箱」といえる。

(2) カリキュラム・マネジメント

前述したように、社会科との関りは大きい。上水や下水、ごみ処理を扱う「健康なくらしをまもる」、玉川上水を扱う「郷土の発展につくす」などで、多摩川とのカリキュラム・マネジメントをはかり、持続可能な社会を考えることにつなげている。東京都水道局の出前授業をお願いしたり、多摩川の上流や下流へ行く社会科見学を計画したりすることで、児童の関心を高め、多面的に考えることができるようにしている。

理科では、「季節と生き物」の単元とのつながりが大きい。季節によって変化する多摩川の様子

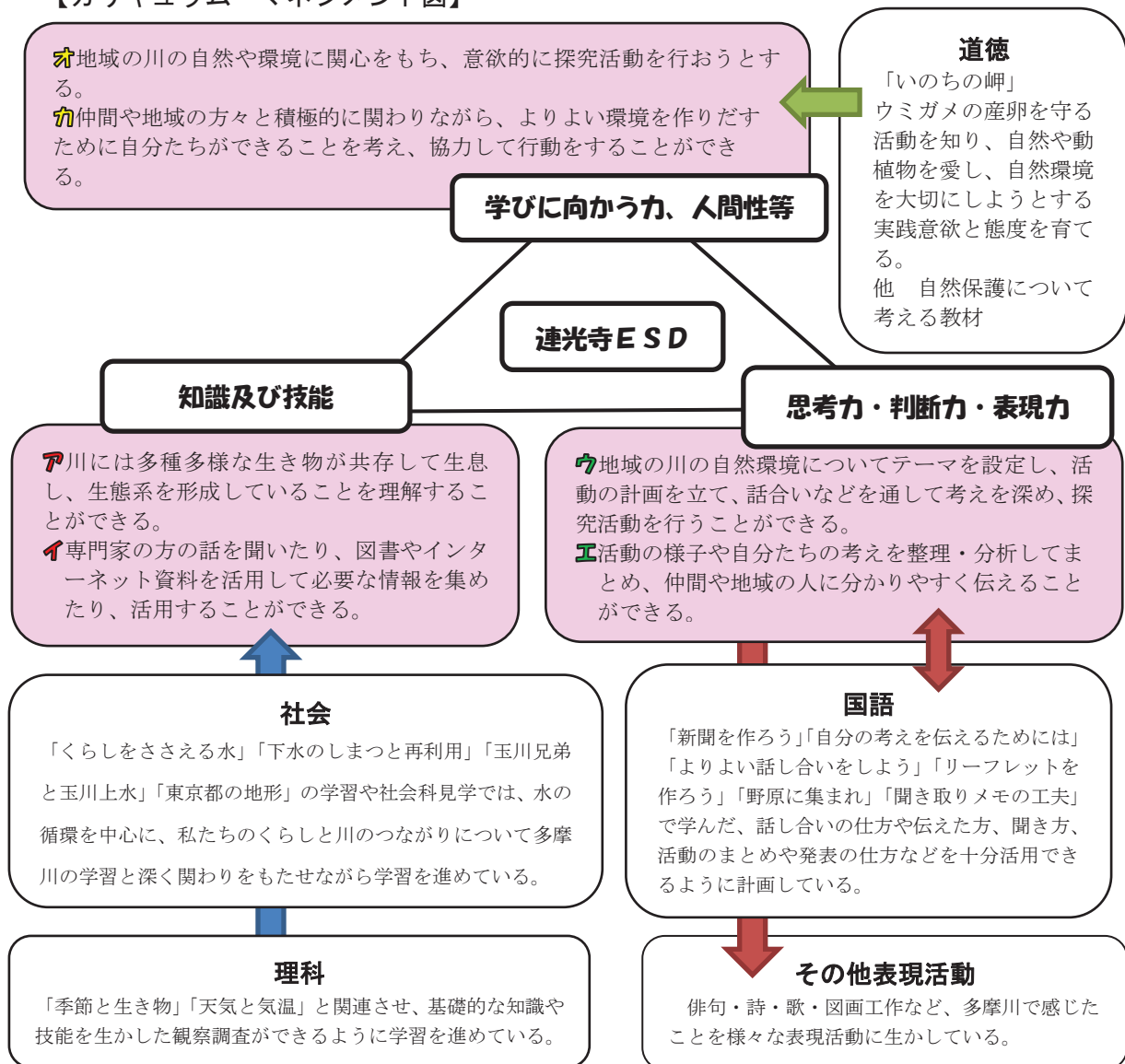
をこの単元と関連付けて学ぶことで、実感をともなった知識を身に付けることができる。また、専門家から伝授される調査方法は、児童の観察の技能や思考力を高めることにつながっている。

国語科では「より良い話し合いをしよう」「自分の考えを伝えるために」「リーフレットを作ろう」「新聞を作ろう」「聞き取りメモの工夫」等の単元で身に付ける言語能力は、協働して活動するための話し合い活動や、多摩川の体験活動をふりかえったり、まとめたりする学習を支えている。また、多摩川の学習は、国語科で養われる言語能力を生かし、さらに伸ばす場ともなっていると見える。

道徳では、ウミガメの保護に関わる人々の思いを考える「いのちの岬」という教材がある。この学習を出発点として、自然保護へ目を向けたり、自分にはどんなことができるか考えたりする道徳の学習を行っている。自然保護の観点から持続可能な社会を考えることで、広い視野で多摩川との関りを考えることができる。

さらに、子どもたちに多くの感動をもたらす多摩川の活動は、表現活動を行う機会を生み出している。活動の後に俳句や詩をつくったり、拾ってきた石で工作したり捕まえた魚の絵を描いたりしている。こうしたことを通して、表現活動の方法や楽しさを伝えていきたい。

【カリキュラム・マネジメント図】



(3) 地域とのつながり

第3学年の総合は、連光寺・聖ヶ丘地区の地域と地域の人々とのかかわりが中心であった。4年生では、活動場所が多摩川に移行する。「多摩川」での学びを通して、「多摩川」や学習に関わってくださった方々を通して、地域への愛着を深めていくことになる。多くの専門家の方や引率に協力してくださる保護者の方などへも常に目を向けるようにし、自分たちを支えてくれる周囲の方々への感謝の気持ちを培っていきたい。

【学習に協力していただいている方々】

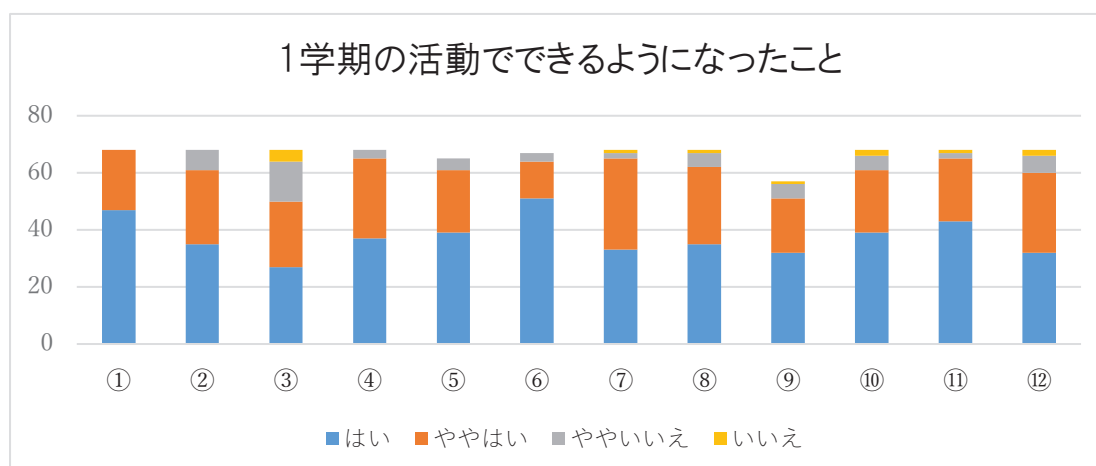
- ・多摩市水辺の楽校 地域の専門家の方々
- ・建設技術研究所
- ・自然観察指導員 (水中の生き物・ガサガサの活動)
- ・東京農工大学研究員
- ・博物館 (パルテノン多摩) 学芸員
- ・保護者
- ・本校職員

3 児童の実態

学校の周囲には大谷戸公園などの公園や里山があり、自然豊かな環境で生活している。しかし、遊びは室内が多く、また家庭では清潔で快適な生活を送っており、草むらに足を踏み入れることや、汗や土で汚れること、また虫や魚などに抵抗を示す児童もいる。そうした中、もともと昆虫や植物などに興味があり自主的に採集を行っていた児童が、回を重ねるごとに意欲的を増して取り組むようになり、そこで活動を工夫していく姿に感化される児童も増えてきた。川で活動することの楽しさを知り、「次はいつ行くのかな。」「早く行きたい。」と心待ちしている児童が大半になった。クラスでは自主的につくられた生き物係(1組)や環境係(2組)が、多摩川係として総合的な学習の時間の司会や準備を積極的に行っている。

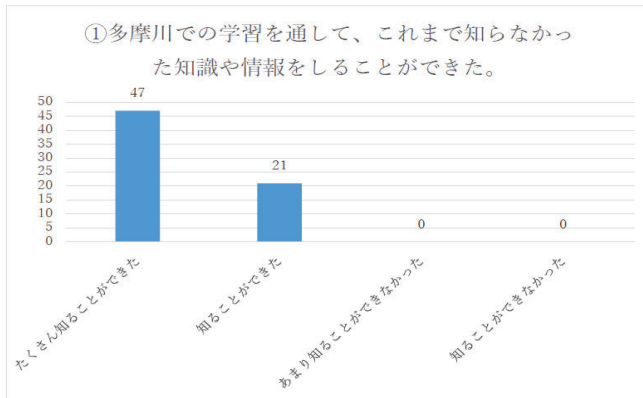
また、専門家の方との関わりや体験的な活動をくり返す中で、活動の楽しさだけでなく、様々な気付きや疑問をもつことができるようになり、多摩川に対する視野が広がってきていることを実感している。

<7月 ルーブリックの結果>



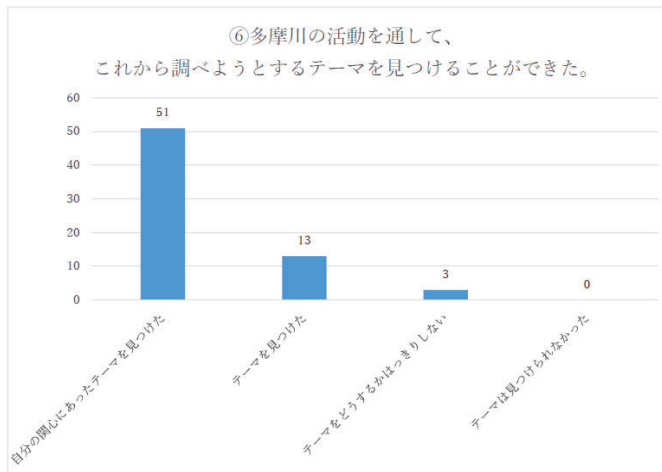
ルールブックの結果を見ると、全ての項目で前向きな回答の割合が多くなっている。多くの児童が、実際に活動することを好み、仲間と関わり合い楽しみながら活動している日頃の様子と重なる。しかし、実際は、それぞれのテーマの内容に伴って調べたり、テーマのねらいに沿って学習を進めたりすることを苦手としている児童は多いと感じている。それぞれのテーマの内容を明確にし、体験してきた学びを生かしながら一人ひとりが学習を深めていけるようにしていきたいと考えている。ルールブックの中で特徴的なものをあげると、以下の通りである。

ア 多摩川の環境やわたしたちの暮らしとのつながりを知る



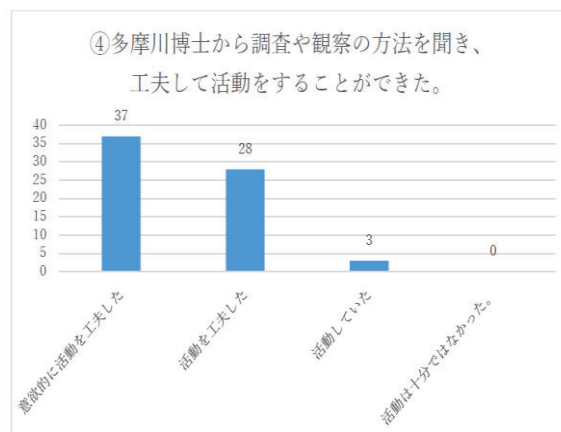
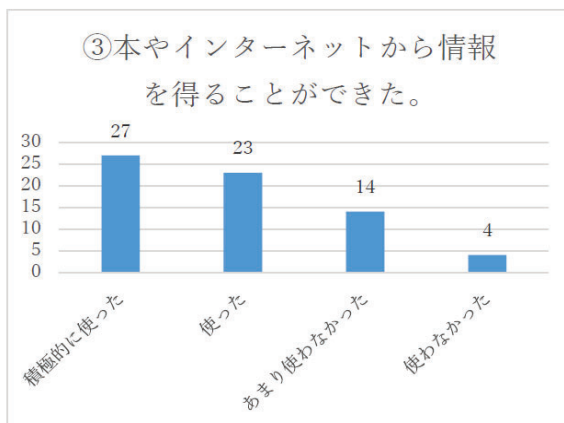
設問①において、全児童が「たくさん知ることができた」「知ることができた」と答え、児童が新たな知識や情報を知ることの喜びを感じ、「次はいつ行くのかな。」「早く行きたい。」と多摩川学習への期待が膨らみ、心待ちしている児童が多くなったと考えられる。

ウ 自分のテーマを決め、計画を立て、調べる（1学期はテーマをきめるところまで）



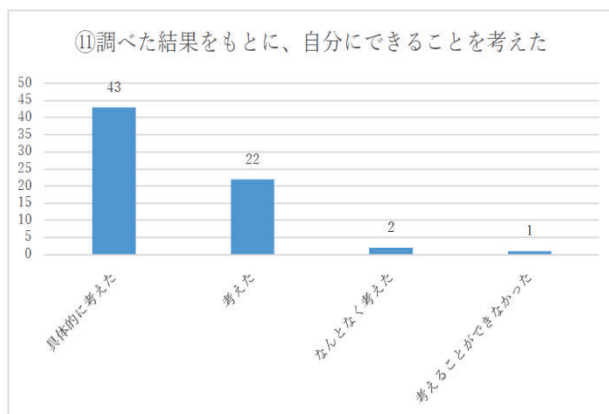
また、設問⑥では「自分の関心にあったテーマを見つけた」と答える児童の割合が高くなっている。2学期に入ってからの活動では、ほとんどの児童が自分のテーマをもち、川での学習を進めることができた。

イ 調べる方法を身に付ける



そして、設問④においても「意欲的に活動を工夫した」「活動を工夫した」と答えた児童の割合が高くなっており、専門家の方との関わりや体験的な活動をくり返す中で、活動の楽しさだけでなく、様々な気付きや疑問をもつことができるようになり、多摩川に対する視野が広がってきていることを実感しているのがわかる。しかしながら、設問③では「あまり使わなかった」「使わなかった」と回答の割合が高くなっている。これから一人ひとりのテーマをまとめていくが、本やインターネットからの確かな情報を得ることを苦手としている児童が多いことがわかる。今後の課題にしていきたい。

カ 協力して自然を守るために行動する



また、設問⑩においては、「具体的に考えた」「考えた」の回答する割合が高いが、調べたことをまとめる活動やまとめたものを発表すること、行動することへの意識は低く、苦手としている児童も多い。今後、それらの良さや達成感を味合わせることで、児童の成長を培いたいと考える。

4 単元の目標

多摩川の自然に関心をもって体験活動や問題解決学習を行うことを通して、課題追究の力を身に付けるとともに、地域の自然への親しみや愛着を感じながら、自分達が自然とどのように関わり、行動することで持続可能な社会つくられるのか考える。

5 単元の評価規準

<知識及び技能>

ア川には多種多様な生き物が共存して生息し、生態系を形成していることを理解することができる。

イ専門家の方の話を聞いたり、図書やインターネット資料を活用して必要な情報を集めたり、活用することができる。

<思考・判断・表現等>

ウ地域の川の自然環境についてテーマを設定し、活動の計画を立て、話し合いなどを通して考えを深め、探究活動を行うことができる。

エ活動の様子や自分たちの考えを整理・分析してまとめ、仲間や地域の人に分かりやすく伝えることができる。

<学びに向かう力・人間性等>

オ地域の川の自然や環境に関心を持ち、意欲的に探究活動を行おうとする。

カ仲間や地域の方々と積極的に関わりながら、よりよい環境を作り出すために自分たちができるところを考え、協力して行動をすることができる。

6 単元の指導計画 70 時間

ねらい	問題解決の流れ □時間	○主な学習活動	☆カリキュラム・マネジメント [地域との連携]
<p>・地域の水の流れと多摩川のつながりをさぐり、これからの活動へ意欲をもつ。</p>	<p>つかむ □2</p> <p>調べる □4</p> <p>まとめる □1</p>	<p>4月～5月</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">流れをたどってみよう(7時間)</p> <p>◇オリエンテーション オ わたしたちと水のつながりを考え、これからの学習のねらいをつかむ。</p> <p>◇多摩川の赤ちゃんさがし(地域の小川たどり) オ ・桜が丘公園付近 4/11 ・谷戸田 4/15 ・水車公園 4/19 ・乞田川～多摩川 5/9</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> <p>振り返りと伝え合いを国語(「書く」「話す・聞く」)で行う。</p> </div> <p>◇まとめ オ 地域と多摩川のつながりに気付いて関心を高め、多摩川を調べるための学習の計画を立てる。</p>	<p>☆理科「季節と生き物(春)」</p> <p>☆国語「春の風景(きせつの言葉1)」</p>



○体験活動や調査活動に関して、指導計画をたてるにあたっては、次の工夫をした。

- ・4月に、地域の小川の観察を複数回行う。
- ➡1回で地域を調べながら多摩川までいくのは、4年生児童の体力に合わない。地域にある水辺の自然を十分観察することができる。
- ・運動会が終わった6月、気温が高くなる前に共通体験を終わらせる。➡熱中症対策

・7月は、社会科見学と合わせて下流の調査を行う。➡大潮の良い時期で気温も高く活動しやすい。クーラーの効いた車や館内が使用できるため、熱中症の心配がない。

・天候によって活動を延期する時は、ゲストの方の話を学校で行う。➡ゲストの方の効果的な関わり方。雨のたびに断るのは申し訳ない。現地よりも落ち着いて、話をきくことができる。



<p>・ 共通体験を通して多摩川の自然に興味や関心をもち問題解決学習の学び方や地域の専門家の方々の関わり方をつかむ。</p> <p>・ 自分の課題をもち、ここからの学習への見通しをもつ。</p>	<p>つかむ ①</p> <p>調べる ③</p> <p>まとめる ①</p> <p>調べる ③</p> <p>まとめる ①</p> <p>つかむ ①</p> <p>調べる ②</p> <p>まとめる ①</p>	<p>6月</p> <p style="text-align: center;">多摩川で「発見」や「はてな」を見つけよう！ (20時間)</p> <p>◇学習計画 共通体験Ⅰの活動の様子やねらいをつかみ、自分の活動の目標や準備するものを考える。</p> <p>◇共通体験Ⅰ 6/3 ア・イ 「河原の観察」「ガサガサ」を行い、発見や疑問を見付ける。</p> <p>◇共通体験Ⅰの振り返り エ 発見したことや疑問に思ったことをまとめ、体験での気づきを共有して次の活動への意欲や見通しをもつ。</p> <p>◇共通体験Ⅱ 6/17 ア・イ 「水質」「鳥」「植物」を行い、発見や疑問を見付ける。</p> <p>◇共通体験Ⅱの振り返り エ 発見したことや疑問に思ったことをまとめ、体験での気づきを共有して次の活動への意欲や見通しをもつ。</p> <p>◇自分の課題を決定する。ウ ドーナツチャートを活用しながら自分の追究するテーマをさぐり、仲間と伝え合うことを通して考えをはっきりさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>社会科見学 7/3 ア・イ ・多摩川の下流域を観察・調査する。中流と比較する。</p> </div> <p>多摩川の下流と中流を比較し、多摩川を調査するための視点をひろげる。 エ</p>	<p>[水辺の楽校] [本校職員] [保護者] [学芸員] [建設技研の方]</p> <p>☆社会「くらしと水」 ☆[出前授業:水道キャラバン] 6/14</p> <p>☆道徳「いのちをつなぐ岬」</p> <p>☆社会「使われた水のゆくえ」虹の下水道館見学 [大師河原干潟館の方々]</p> <p>☆国語「新聞を作ろう」※社会科見学のまとめ</p>
<p>・ 多摩川に対して視野をひろげる。</p>		<p>7月～8月 夏季休業中</p> <p>◇夏休みの課題「川新聞」作り ア</p>	<p>☆国語「新聞を作ろう」</p>

<p>・自分のテーマをはっきりさせ、仲間と協力しながら計画をたて、調査を行う。</p> <p>・分かったことをまとめ、さらに調べたいことをはっきりさせる。</p> <p>・多摩川の活動で分かったことを整理し、まとめの作品をつくるための計画をたてる。</p>	<p>つかむ ①</p> <p>つかむ ①</p> <p>調べる ②</p> <p>まとめる ①</p> <p>調べる ②</p> <p>まとめる ①</p> <p>調べる ②</p> <p>つかむ ① 本時</p> <p>つかむ ①</p>	<p>9月</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">多摩川博士になろう(25+時間)</p> <p>◇これまでの学習の振り返り、テーマを決める。 1学期の学習や「川新聞」等を振り返り、2学期の学習の見通しをもち、自分のテーマを決める。オ</p> <p>◇学習計画 課題を同じくする仲間と協力して、調査したいことやその方法を考え、活動の計画を立てる。ウ</p> <p>◇課題別調査Ⅰ 9/18 「魚」「鳥」「植物」「石」「水質」などの課題に分かれ調査活動を行う。イ・ウ</p> <p>◇課題別調査Ⅰの振り返り 調査でわかったことをまとめ、2回目の調査活動の計画をたてる。ウ・エ</p> <p>◇課題別調査Ⅱ 「魚」「鳥」「植物」「石」「川」などの課題に分かれ調査活動を行う。イ・ウ</p> <p>◇課題別調査Ⅱの振り返り 同じ課題の仲間と自分の発見や疑問などを伝え合い、多摩川への理解を深めたり、さらに調べたいことをはっきりさせたりする。エ</p> <p>◇調べ学習 多摩川の活動でさらに追究したいことについて、図書やインターネット資料等を活用して調べる。 イ・ウ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10月～11月</p> <p>◇学習計画 これまでの多摩川の学習をふりかえり、発表を聞きにくる人へ何を伝えたいか、Yチャートを活用して自分の考えをはっきりさせる。エ</p> <p>まとめの作品をつくるための計画をたて、そのために必要な調べる内容をはっきりさせる。ウ</p>	<p>☆社会「使われた水のゆくえ」 ☆[出前授業:みんなの下水道] 9/12</p> <p>[水辺の楽校] [自然観察指導員] [建設技研] [学芸員] [保護者] [連光寺小職員]</p> <p>☆理科「季節と生き物(夏)」 ☆国語「春の風景(きせつの言葉2)」 ☆道徳「バイバイ・レジ袋『知っていますかSDGs』(さえら書房)より</p> <p>☆国語「調べたことを整理し発表しよう」Yチャートの活用 ☆社会「わたしたちの生活とごみ・資源」</p>
--	--	--	--

<p>・発表のための作品作りを行い、発表の準備をする。</p>	<p>まとめる 調べる [8] 見学[2]</p>	<p>◇まとめの作品づくりと調べ学習 計画にそってまとめの作品をつくる。また、図書資料等を活用したり、専門家の先生に聞いたりして、発表や作品作りに必要な調べ学習を行なう。イ・エ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>社会科見学 11/26 ア・オ ・多摩川の上流域を観察・調査する。中流と比較する。</p> </div>	<p>☆理科「自由研究」 ☆国語「アップとルーズで伝える」 「クラブ活動リーフレットを作ろう」 ☆社会「玉川上水」</p>
<p>・学年内の発表会をひらき、自分の考えを伝えたり深めたりする。</p>	<p>発信する [2] まとめる [1]</p>	<p>◇発表の計画と準備 作品を基に発表会を行う計画を立てる。ウ [1 2月]◇発表会を開く。 自分たちが行ったことや考えたことを発表したり、他のグループの発表を聞いたりする。カ ◇まとめる 発表会をふりかえり、多摩川の自然に対する自分の考えを深める。ア・カ</p>	
<p>・多摩川未来会議を開き、自分たちにできることを話し合い、実行する。</p>	<p>つかむ [2] つかむ [2] 発信する [3]</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[1月] 多摩川とわたしたち(18時間)</p> </div> <p>◇「多摩川未来会議」 これからの多摩川がどうなってほしいか、また、自分はどのようにかわりたいか話し合い、自分たちができること、したいことを決める。カ ◇未来会議で決まったことを実践するための計画たて準備をする。ウ ◇未来会議で決まったことを実践する。カ ・ポスター作り ・川の清掃など</p>	<p>☆道徳「琵琶湖のごみひろい」 ☆理科「自然の中の水」「季節と生き物・一年間をふりかえって」 ☆国語「野原にあつまれ（多摩川野原歌づくり）」</p>
<p>・一年間の学習の様子やメッセージを他学年の児童や保護者、地域の人々に伝える。</p>	<p>つかむ [1] まとめる [5] 発信する [3] まとめる [1]</p>	<p>◇発表会の計画と準備 2月の全校の発表会で、多摩川の学習の様子や、学習を通して考えたことを伝える計画をたてる。ウ ◇発表会の準備や練習をする。ウ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生活科・総合的な学習の時間発表会 2/22</p> </div> <p>他学年の児童や保護者、地域の人々に向けて発表会を行う。エ・カ ◇発表会のふりかえり、考えをまとめる。ア・カ</p>	

本時の指導

(1) 本時の目標

1 学期からの活動を整理し、多摩川について伝えたいことは何か自分の考えをはっきりさせる。

(2) 本時の展開 (38 / 70 時間)

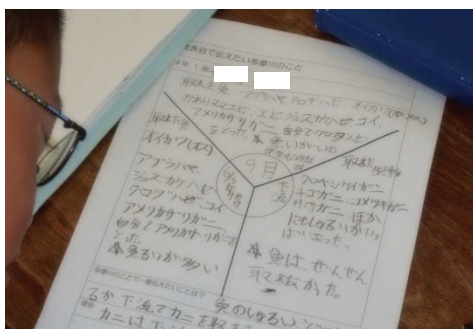
児童の活動	◆評価規準 ・支援
<p>1 本時のめあてや学習活動を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあて <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>分かったことを整理して、 伝えたいことを中心を決めよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習活動や今後の予定を確認する。 ・整理する方法を例示しながら説明する。 <p>2 ワークシートにそって、これまでの活動で分かったことを整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>相談タイム (検討会) 1</p> </div> <p>T 1～T 3 が机間巡視で対話をする。</p> <p>☆ファイルを見直してごらん。ここにいいこと書いてあるね。</p> <p>☆一番伝えたいことは何かな？</p> <p>☆どうしてそう思ったの？</p> <p>☆具体的にいうとどうということ？</p> <p>3 グループで自分の考えを伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>相談タイム (検討会) 2 児童と児童</p> </div> <p><聞き手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを中心はなんですか？ ・どうして、そう思ったのですか？ <p><話し手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問や感想はありますか？ ・相談したいことがあります。 ・アイデアをください。 <p>4 振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を進めるための司会は、「多摩川係 (生き物係)」が行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・整理に使う思考ツール (Y チャート) は、国語科 話す・聞く「だれもが関わり合えるように」で取り上げている表を活用する。 ・ポートフォリオを見返し、調査活動や話し合いで学んだこと、分かったことを明確にする。 ・指導者は、声をかけるポイントをあらかじめ相談する。 <p>◆仲間と交流しながら、自分の考えを伝えることができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終わったグループは、参観している先生に伝えて対話する。 <p>◆自分の伝えたいことを中心をはっきりさせることができた。</p>

8 授業の様子



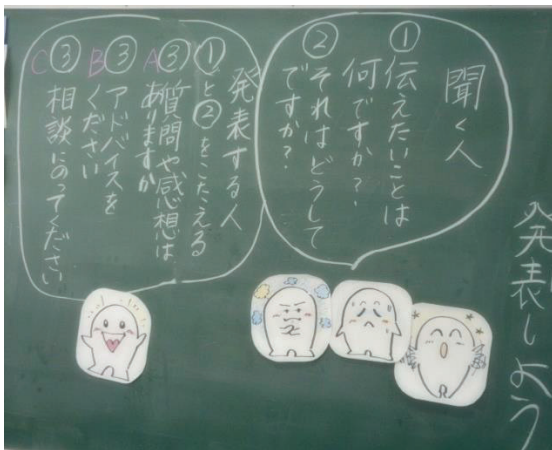
児童の司会

○これまでの活動をふりかえります・・・
○今日のめあては・・・
○今日は、Yチャートをつかって、伝えたいことをまとめます。



ポートフォリオの活用

○ポートフォリオを見ながら、Yチャートを使って自分の考えをまとめる。



ポートフォリオ評価

- 3人の指導者が、児童のまとめを読み、コメントしていく。
- 仲間に伝え合うことで、自分の考えを深めていく。



9 協議会記録

(1) 分科会より提案

ポートフォリオの活用について

学習過程でつくられたワークシート等を閉じてあるだけのものから、それを活用して再構築するもの（パーマネントポートフォリオ）場面の設定をおこなった。

<その1>学年内発表会に向けたまとめの作品作り

※本時は、作品づくりの一步として、これまでの活動の中から自分が一番伝えたいことを見つける。

<その2>2月の「生活・総合的な学習の時間発表会」のプレゼン作り

9 協議会記録

(1) 分科会提案

①ポートフォリオの活用について

学習過程でつくられたワークシート等を閉じてあるだけのものから、それを活用して再構築するもの（パーマネントポートフォリオ）場面の設定をおこなった。

<その1>学年内発表会に向けたまとめの作品作り

※本時は、作品づくりの一步として、これまでの活動の中から自分が一番伝えたいことを見つける。

<その2>2月の「生活・総合的な学習の時間発表会」のプレゼン作り

②ポートフォリオ評価について

学習（パーマネントポートフォリオ）のねらいに向かって児童が活動を自主的に進められるような対話をするを検討会ととらえ、次のような場面の設定を行った。

<その1>児童と指導者（T1～T3による机間巡視）

<その2>児童同士（伝え合い 話し合い 相談会）

T1～T3の確認事項

※できていない時や修正が必要な時は、自ら気付くような言葉かけをする。

※できている時は、価値づけるような言葉かけをする。

③虎の巻とは？

児童が自主的に活動を進められるようにするために用意したもの

- ・「これまでの学習の流れ」と「今後の予定」
- ・多摩川でとれた生き物のリスト
- ・川に関する図書本とそのリスト
- ・インターネットの検索の仕方（今後用意する）

④カリキュラム・マネジメントについて

<社会科>

6月中旬から9月にかけて「くらしと水」単元を扱った。出前授業や社会科見学を計画し、上水と下水道を学習することで、水の循環や人々の関わり方を考え、時間をかけて学んできた。

(教室の廊下側壁に「水の循環」についての掲示)

<国語>

分類・整理のツールとして、Yチャート(Xチャート)を活用した。ツールの活用にあたっては、国語上巻「だれもが関わり合えるように」(調べたことを整理し、発表しよう)を参考にし、練習した。

(2) 協議会

①ポートフォリオの活用について(本時の展開について)

- ・伝えたいことが共有できていた。
- ・伝えたいことを絞りすぎるのではないか。今のところは、自分の調べたい事のみでよいのではないか。
- ・同じ課題のグループで話し合ってから、Yチャートを使ったまとめでもよかったのではないか。
- ・自分の意見や見通しをもって評価でき、作品作りにつながる。
- ・ポートフォリオで振り返る時間をとり活動をまとめると、自分の考えもすっきりする。作品の中身も充実し、自信にもつながる。

②ポートフォリオ評価について

- ・児童が混乱することなく検討することができた。

③虎の巻について

<特になし>

④カリキュラム・マネジメントについて

- ・社会科のまとめが、壁にはってあり効果的であった。
- ・国語で練習した、思考ツールの活用が生きていた。

(3) 指導講評

- ・まだ、作品作りのための発表モードになっていない子どもの状態がわかる。もう少し調べる時間をとった方がよい。
- ・子どもと教員の評価のズレは生じるが、否定してはいけない。力のある児童が低い自己評価をすることもあるが、そのままでもよい。最終的に評価をするのは、教員。

- ・今回の Y チャートの活用については、項目などに検討の余地がある。
- ・机間巡視で問いかけをし、児童の考えが深められたことが、ポートフォリオ評価になっていた。
- ・児童の振り返りは○×の記号ではなく、文章で行うと、自己理解につながる。
- ・問題解決の流れをつくと効果的。今後連光寺小の指導書を作成したらどうか。

10 成果と課題

(1) 成果

①ポートフォリオ評価について

- ・理論と実践を結びつけることができた。これまでおこなってきた、指導者による机間巡視やアドバイスや児童同士の話し合いの時間をポートフォリオ評価と位置付けることで、指導のねらいが明確になった。イ・ウ
- ・これまでの活動を振り返る時間をもつことで、次の活動が深まった。作品作りも、調べ学習をまとめたものだけでなく、これまでの活動全体からまとめたものや、多摩川の魅力や自分のつかんだことを新たに再構成するようなものがみられた。イ・エ

②年間の指導について

- ・学習の進行を児童中心にしたり、次の活動についてどう考えるか児童に問いかけ続けたりしたことにより、総合的な学習の時間は自分たちで考え進めるという意識を持たせることができた。イ・オ
- ・多摩川未来会議（多摩川の未来を考えるために、自分たちにできることを考え実行する）を12月末からおこなった。その後、海洋プラスチックの問題にまで触れる時間はでき、SDGs につなげることができた。そのことは、現代のリアルな課題に向き合い自分たちのこととして考えることにつながった。また、「生活科・総合的な学習の時間の発表会」での発表内容がバラエティー豊かなものになった。エ・カ

③6つの能力・態度

- ・ポートフォリオを活用することを意識した結果、児童が学習をふりかえり、これまでの学習を通して考える学習が身についた。考えを表現する力を伸ばす要因になっている。イ・エ
- ・多摩川未来会議を12月末から行ったことにより、川のゴミ拾いがゴールになるのではなく、そこから海洋プラスチックの問題など新たな課題を見つめることにつながった。ア・カ

(2) 課題

①ポートフォリオ評価を幅広く活用するためには、経験を積むことが必要

- ・学習展開のどの場面で行うと効果的なのか意識し、計画したり実践を行ったりする。
- ・日常的に行うことができるようにするためにも、ポートフォリオ評価を行うねらいを共有し、

指導者間の連携をつくることが大切。イ・ウ

②年間の指導について、活動場所や方法について検討が必要

・台風や工事に伴い、多摩川の状況が変化している。前年と同じ活動を行うことを繰り返すのではなく、状況に応じた活動を計画することで、様々な学習活動の事例を積み重ねていく事が、持続可能な多摩川学習につながると考える。ウ・オ

③6つの能力・態度

・問題解決学習を繰り返すことで、どの力も伸びてきたが、社会の課題を自分のこととして考え行動する点においては、まだ十分といえない日常生活での様子がみられる。カ

高学年分科会

1 分科会テーマ

自分の考えをもって伝え合い、深めたり高めたりできる

学習活動の工夫

2 テーマ設定の理由

連光寺小学校を訪れる人の多くが、緑に囲まれた環境の豊かさについて感想をもつように、自然環境の豊かさは、本校の第一の特色となっている。また隣接する都立桜が丘公園は、多摩ニュータウンの開発前の里山の面影を見ることができ貴重な場所である。こうした古くからの人々のつながりや自然の豊かさを活かしながら、連光寺小学校の特色ある教育活動が行われてきている。児童は、毎日窓の外に見える桜ヶ丘公園の緑の変化を見続けながら、6年間の学校生活を送っている。本校の特色ある教育活動は、5年生の「連光寺 SATOYAMA プロジェクト」に代表されるようにこうした環境を生かして行われていおり、児童は素直に学習対象に向き合い、地域に愛着を感じながら成長していることを感じる。特に、仲間と協力しながら体験活動を行ったり、仲間と話し合っって探究活動を進めたりすることに楽しさを感じている児童は多く、本校の児童の良い面としてとらえている。

しかし高学年になると、さらに広い世界で活動できる児童を育てていかなければならない。様々な場面で、自分の考えや判断をもって活動することや、新しいものを生み出していくことが求められるようになる。そのために、現状に満足するだけでなく、より良いものを目指して取り組む積極的な姿を目指してきた。「連光寺 SATOYAMA プロジェクト」の終わりに、地球温暖化に目をむけ、6年の「未来にやさしいエネルギー」につながるよう学習を組み立てたのはそのためである。それは、今後、社会の問題や課題に直面し予測のつかない状況に向き合う事があっても、仲間と協力しながらたくましく新しい社会をつくることのできる力を身に付けてほしいという願いからくるものである。ESDに取り組む本校の研究のねらいと重なるところである。

そこで今年度の高学年分科会では、目指す児童の姿を次のようにとらえた。自分の考えをもち、それを仲間や地域の人と伝え合うことで、自分の考えを一層深めたり、新しい考えを生み出したる姿である。以上のことから、高学年分科会のテーマを上記のように設定した。そのためには、学習過程に学び合う場面を設定していくことや、学習形態など学習活動の工夫を行なうこと、また児童が主体的に取り組むための教材などの工夫を積極的に行っていくことが重要と考えている。さらに、今年度の研究のサブテーマであるホールスクールの構築を目指し、分科会テーマに取り組んでいくこととする。

第5学年 総合的な学習の時間 学習活動案

令和元年9月25日(水)5校時

5年1組 36名

5年2組 35名

指導者 中島 直文

津久井 浩介

1 単元名

「連光寺 SATOYAMA プロジェクト」

2 単元について

(1) 単元の捉え方

我が国の国土面積に占める森林面積は約66%で、先進国の中では有数の森林国である。法隆寺の本造建築から一般住宅、多様な木工技術を駆使した家具や生活用品、更には木仏や神木にも見られるように、我が国は古来「木の文化」を築いてきた。しかし、1955年ごろより家庭用燃料の化石燃料化が始まり、1980年ごろには家庭用燃料としての薪・木炭は娯楽用途を除きほぼ姿を消すようになってきた。また、製材も、より安価な輸入材が使われるようになると森林は宅地化によって失われたり、不在村地主化した所有者により放置されたりするようになった。

そんな中、近年、里山が環境保全の舞台として注目されるようになってきた。里山の樹林は「緑のダム」と呼ばれるように雨水をダムのように貯めて、ゆっくりと川に流す働きや雨水が土壌に浸透する過程で水質が浄化される働き、樹木等の根が表土を安定させることで、洪水や水の枯渇、土砂の流出を防ぐ働きなどいくつもの機能も持っていること、また、里山には樹林だけでなく、草地や水辺といった様々な環境があることから、様々な生物が棲む場としての機能も持っていること、これらのことが注目される所以である。

長い間人々は、里山から作物をはじめとして燃料、肥料、木工品の材料、薬草など、生活のために必要なものを得てきた。昔の暮らしや作業には、自然の働きを損なわずに自然の恵みを享受し続けるための知恵や工夫がある。また、人の手を加え続ける事で守られてきた豊かな生態系が存在する。このような人間と自然との共存の姿に、持続可能な社会を考えるためのヒントがあると考え、「SATOYAMA」をクローズアップする単元計画を立てた。

本校で「SATOYAMA」と呼んでいる場所は、かつての「里山」が、森林研究所や都立桜が丘公園として残っている場所である。桜ヶ丘公園では、敷地内の竹林や谷戸田で農作業を体験し、人間と「里山」の関わりについて考えてきた。こうした学習活動を踏襲しながら、より環境保全を考えることに重きをおき学習を進めたいと考えた。

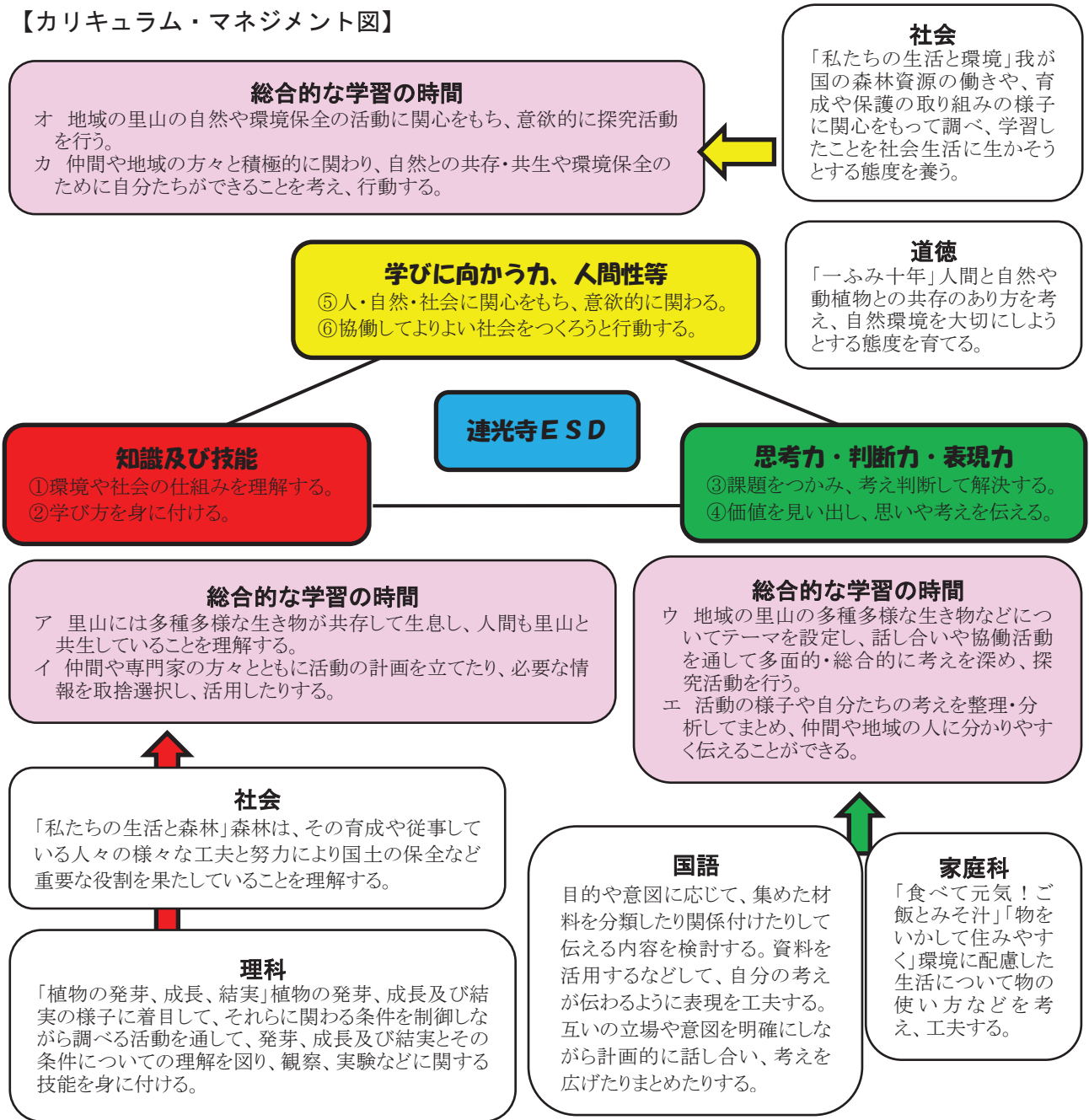
その理由の1つに4年生の学習との関連がある。4年生で行ってきた多摩川の学習では、川と人間の生活の関わりや、水源林としての森の役割を見つめながら、川を守るために自分たちにできることを考えてきた。ここで育った意識を「SATOYAMA」の学習でさらに高めていきたいと考えた。2つ目は、公園内にある谷戸田の活動に対して目的意識をもって行いたいと考えた

からである。谷戸田は、かつて放置され、葎に覆われた荒地であった。公園の呼びかけで集まった「雑木林ボランティア」の人々が手を入れ、10年近い年月を経てもとの景観を取り戻し、最近では、絶滅危惧種の動植物も田や林に姿をみせるようになった。こうした地域の人々と活動をともにする事は、自分達が自然とどのようにかかわるか考え、行動する時の足がかりとなってくれろと考え、これまで以上に積極的に環境を守る意識をもち、谷戸田での活動を進めていくこととした。また、3学期に行う農作業に「炭焼き体験」があるが、この活動については、6年生で行うエネルギーの学習とのつながりをもたせたいと考えている。

(2) カリキュラム・マネジメント

森林の環境を考えるという視点では、社会科の「国土の地形と特色」「わたしたちの生活と森林」と深い関わりをもつ。国土の地形の場所による違いや特色、森林資源の働きや育成や保護の取り組みの様子、国土に広がる森林が国土の保全や水資源の涵養などに重要な役割を果たしていること、森林の育成や保護に取り組む人々の工夫や努力について学ぶ。また、自然との繋がりや生命の連続性を学ぶという視点では、理科の「植物の発芽・成長・結実」では、植物の発芽や成長の条件や結実の仕方などを学ぶ。こうした総合的な学習の時間での学習活動が教科で身に付ける力を高めたり、教科での学びが総合的な学習の時間の学習活動を広げたりするなど、相乗効果があると考え。そして、国語科の「活動報告書」「グラフや表を用いて書こう」「天気を予想する」「想像力のスイッチを入れよう」では、活動のまとめや発表の仕方、話し合いや討論などを学び、総合的な学習の時間全体の活動を支えていくことにつながる。その他にも、地域の自然で感じ取ったことなどを俳句や詩を味わう学習に生かしていきたい。国語科では、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることが目標として学習を進め、総合的な学習の時間を通して学んだことや考えたことを仲間や地域の人に伝えたり、自分の考えを深めたりすることにつながっていく。家庭科の「食べて元気！ご飯とみそ汁」は、谷戸田での体験活動と直接かかわりの深い学習となる。また、「物をいかして住みやすく」では、環境に配慮した生活について物の使い方などを考えたり、工夫したりすることで、第6学年に向けた地球温暖化の学習に繋げていきたい。こうした教科の学習と連携を図りながら、本単元の学習を進めていくことで、E S Dの実践力をより高めていきたい。

【カリキュラム・マネジメント図】



(3) 地域とのつながり

学習の舞台となる「SATOYAMA」（森林総合研究所・桜ヶ丘公園）は学校から歩いて5分という立地であり、児童にとっても教室の窓から毎日見ている景色で、身近なものではある。しかし、「SATOYAMA」の中に入って自然と直接触れ合う経験をもつ児童は、多くない。桜ヶ丘公園の中にある竹林や谷戸田は、普段は施錠されている場所である。竹林で笹掘りをする活動や、谷戸田で農作業・観察をする活動の時には、桜ヶ丘公園に協力をお願いしている。ここでの活動を支えてくださるのは「雑木林ボランティア」の方々である。

森林総合研究所は、高尾山にある森林科学園の多摩試験地で、かつては常駐する職員もいたが、現在は研究等を行う場合にのみ職員や研究されている方々が使用する施設である。本校の学習に

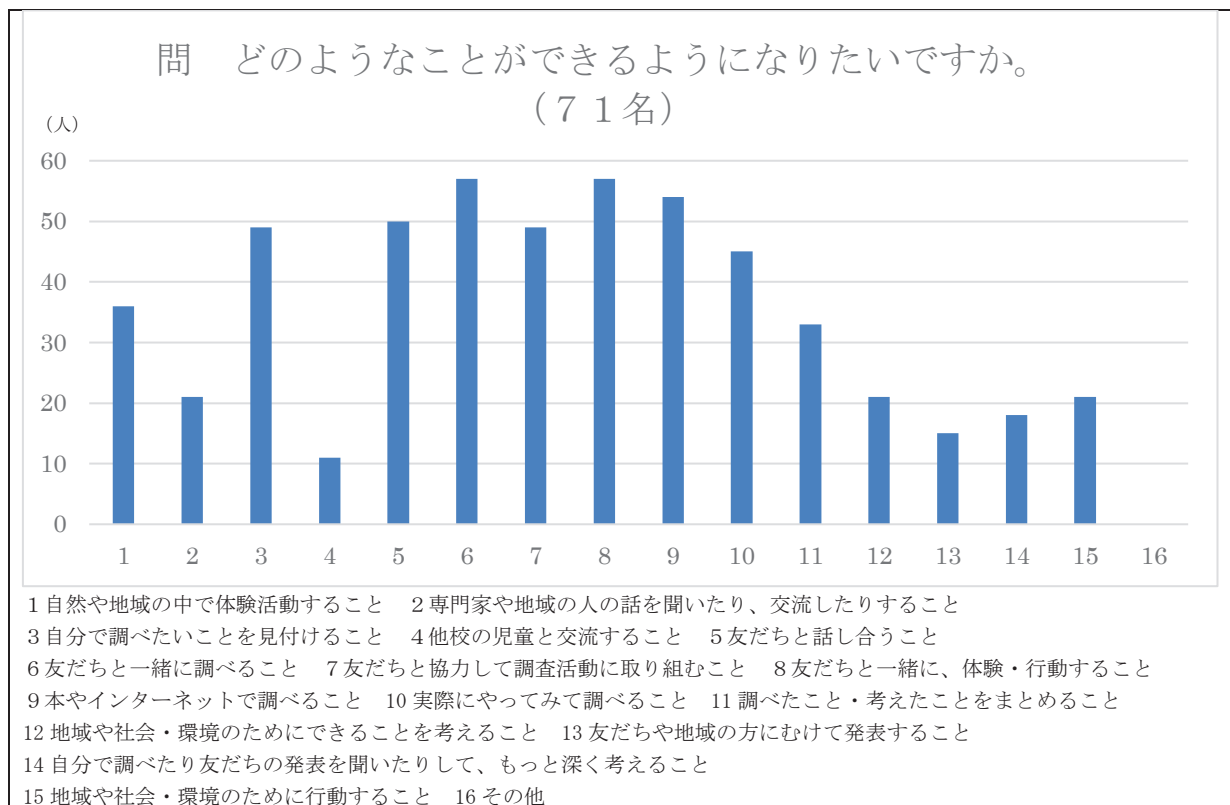
協力いただいて18年以上経つ。この施設で児童が活動する時は、研究所や葛西臨海水族園などの専門家の方々に協力をいただいている。

【今年度関わりをもつ予定の地域人材・関係機関】

- ・都立桜ヶ丘公園管理事務所
- ・雑木林ボランティア
- ・高尾森林センター
- ・森林総合研究所
- ・林野庁関東森林管理局
- ・東京都動物園水族館協会（井の頭文化園、葛西臨海水族館、上野動物園）
- ・パルテノン多摩学芸員の方

3 児童の実態

今年度の5年生は、自然に触れ、里山の見方や里山を存分に体験することから学習を始めた。児童が自分たちにとって身近な里山を肌で感じることで里山の動植物や環境に興味をもたせることが狙いである。1学期には、たけのこ堀りや谷戸田での田植え、高尾森林科学園への校外学習等を行い、児童の里山に対する関心や興味は高まってきている。また、自分で調べたいテーマを決め、友達と協力して体験活動に取り組んだり、調査活動を行ったりすることに関心をもち、意欲的に取り組んでいる。このことは9月に実施した総合的な学習の時間アンケートからも伺える。以下がその集計結果である。



* 5年 71名 アンケート調査9月実施

集計結果から分かるように、4、13の他校との交流について、友達や地方の方に向けての発表について特に児童の関心が低い。要因として、これまでの学習の中で他校との交流を行う学習を経験していないことや、自信の無さ、自分の考えを伝えることに抵抗をもっている児童が多いことが考えられる。今後の学習計画の中に効果的に作用するよう位置づけることを考えていきたい。

4 単元の目標

仲間や専門家、地域の人々と関わりながら「SATOYAMA」での探究活動を行うことを通して、課題追究の力を身に付けるとともに、自然と共生する「SATOYAMA」の価値や地域の良さに気づき、自分たちがどのように関わり行動するか考え、行動する。

5 単元の評価規準

ア 知識及び技能

- ① 里山には多種多様な生き物が生息していることを理解することができる。
- ② 仲間や専門家の方と話し合いながら、調査計画を立てることができる。
- ③ 図書資料やインターネット資料等から必要な情報を選択し、活用することができる。

イ 思考・判断・表現等

- ① 話し合いや協働活動を通して多面的・総合的に考えを深め、探究活動を行うことができる。
- ② 探究活動を通して分かったことや考えたことをまとめたり、仲間や地域の人に伝えたりすることができる。

ウ 学びに向かう力、人間性等

- ① 話し合いや協働活動を通して多面的・総合的に考えを深め、探究活動を行うことができる。
- ② 探究活動を通して分かったことや考えたことをまとめたり、仲間や地域の人に伝えたりすることができる。

6 単元の指導計画 70 時間

ねらい	問題解決の流れ□時間	○主な学習活動	教科との関連
地域の森林の様子を探ったり、保全の活動をしている方	つかむ ¹ 調べる ³ まとめる ¹	<p><1学期></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 森林調査隊 23時間 </div> <p>○川と森とのつながりについて想起し、これから地域の森を探る意欲をもつ。オ ○竹林を保護するための方法を知り、たけのこ掘を行う。保全活動①ウ</p>	社会科 「国土の地形」 我が国の国土の4分の

<p>と交流したりして、愛着をもちながら自分の課題をさぐる。</p> <p>自分の課題にそって探究活動を行い、分かったことや考えたことをまとめる。</p>	<p>発表¹</p> <p>調べる² つかむ²</p> <p>調べる・見学³</p> <p>まとめる¹</p> <p>つかむ² 調べる⁴</p> <p>まとめる¹</p> <p>つかむ¹</p> <p>調べる・見学³</p> <p>まとめる²</p> <p>つかむ¹</p> <p>つかむ¹</p>	<p>○高尾森林科学園の様子を予想する。</p> <p>○高尾森林科学園へ行く計画を立てる。イ</p> <p>○分かったことや新たな疑問を仲間と交流し、考えを深める。エ</p> <p>○谷戸田での保全活動の様子を知り、田起こし・田植えを行う。 保全活動②ウ</p> <p>○テーマを考える</p> <p>○同じテーマの仲間と探究活動の計画を立てる。イ</p> <p>○専門家や地域の方々に活動計画を見せ、助言をもらい、計画を見直す。イ</p> <p>○調査計画を基に、探究活動を行う。 調査活動①ウ</p> <p>○分かったことや新たな疑問などを他グループの仲間と交流し、考えを深める。エ</p> <p>○公園内を散策して分かったことをまとめ、仲間と交流する。エ</p> <p>○調べたことを基に仲間と交流しながら、自分のテーマを設定する。ウ</p> <p><夏休み> 集団宿泊で林業体験を行い、間伐することの意味や大変さを知る。ア</p> <p><2学期></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>SATOYAMA 博士になろう 26 時間</p> </div> <p>○調査活動①を基に次の調査活動の計画を立てる。イ</p>	<p>3は山地で、南北に背骨のように連なっている。</p> <p>理科 「植物の成長」 植物の成長には日光や肥料が関係している。</p> <p>国語科 「活動報告書」 目的や意図に応じて、軽重をつけたり、取捨選択したりしている。</p> <p>社会科 「生活と食料生産」 米づくりは自然環境と深いかわりがある。 「生活と森林」</p>
---	--	--	---

<p>里山の定義を調べ、里山についての基本的な知識を得る。</p>	<p>調べる⁴</p> <p>まとめる²</p> <p>1 本時</p> <p>調べる・見学³</p> <p>まとめる¹</p> <p>調べる²</p> <p>まとめる¹</p> <p>つかむ¹</p> <p>調べる・見学³</p> <p>まとめる¹</p> <p>調べる³</p> <p>まとめる³</p> <p>発信する²</p> <p>調べる²</p>	<p>○探究活動を行う。調査活動②ウ</p> <p>○わかったこと、新たな疑問をまとめる</p> <p>○次回の活動で、調べたいことを考え、活動計画を立てるイ</p> <p>○活動を振り返り、グループで交流する。エ</p> <p>○谷戸田で稲刈り体験を行う。保全活動③ウ</p> <p>○田起こし、田植え、稲刈りなどの保全活動を通して、学んだことや考えたことをまとめる。エ</p> <p>○2回の調査活動や3回の保全活動を通して、考えたことをまとめ、さらに知りたいことを明確にする。ウ</p> <p>○さらに調べたいことを本やインターネットで調べる。イ</p> <p>○調査活動②を基に次の調査活動の計画を立てる。イ</p> <p>○探究活動を行う。調査活動③ウ</p> <p>○調査活動③でわかったことをまとめる。</p> <p>○里山の定義、里山と人とのつながりなどを学ぶ。ア</p> <p>○里山の定義について、インターネット資料や図書資料を基に調べる。アイ</p> <p>○調べたことを画用紙にまとめる。エ</p> <p>○調べたことを仲間と交流し、里山とはどのような場所なのか、まとめる。エ</p> <p>○調べてわかったことを報告書にまとめ、里山や環境を守る活動についての自分の考えをもつ。カ</p> <p>○友達と意見交換をする。エ</p> <p>○竹林の整備の手伝い（伐採）を行う。ウ （3学期の活動の準備）保全活動④ウ</p>	<p>国土の保全や水資源の涵養のための森林資源の重要性を理解している。</p> <p>環境保全のための国民一人ひとりの協力の必要性を理解している。</p> <p>社会科 「生活と環境」 環境汚染から健康や生活環境を守るためのわたしたち一人ひとりの努力や協力の大切さを考えようとする。</p> <p>家庭科 「物をいか</p>
-----------------------------------	--	--	--

<p>環境を守るために自分たちにできることを考え発信する。</p>	<p>つかむ 2 調べる・まとめる 4 発信する 2 まとめる 1 調べる・まとめる 7 つかむ 2 発信する 2 まとめる 2</p>	<p><3学期></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>SATOYAMA の未来を考えよう 22 時間</p> </div> <p>○今までの学習から分かったことや考えたことを下級生や保護者・地域の方に発信する計画を立てる。イ ○里山の未来について考えをまとめる。カ</p> <p>○保護者やお世話になった方、地域の方を招いて、発表会を行う。エ ○発表会を通じて感じたことを仲間と伝え合い、自分の考えを深めるエ ○多摩の人々が昔、エネルギーとして使っていた炭を得るため、炭焼き体験を行い、人と自然との関わりを考える。保全活動⑤ウ ○専門家の方から、現代の地球環境の課題について話を聞き、自分たちにできることを話し合う。カ ○話し合ったことから、自分たちがすぐに取り組めることを確認する。 ○自分たちにできることを実行する。カ</p> <p>○1年間の活動を振り返り、自分の考えをまとめる。 エ※6年生の「エネルギー」の学習につながる方向性ができるよう支援する。</p>	<p>して住みやすく」 環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫する</p>
-----------------------------------	--	---	--

7 本時の指導

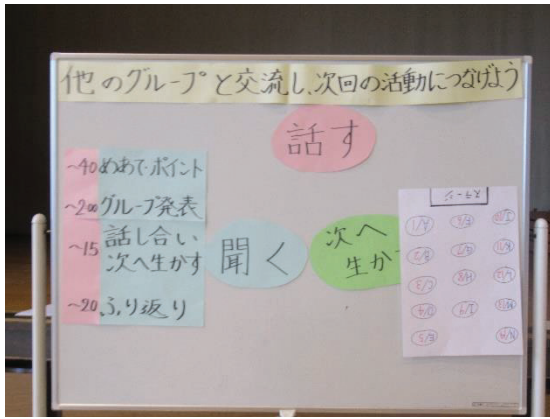
(1) 本時の目標

・これまでの活動で分かったことや次回への課題を他グループの仲間と交流合いあい、自己のテーマとの関連性など、新たな視点を持ち、次の調査活動の課題を見出す。

(2) 本時の展開 (31/70時間)

児童の活動	◆評価規準 () 評価の方法 ○留意点
1 本時のめあてや、これまでの学習の流れを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 他のグループと交流し、次回の自分の課題について考えよう </div>	
2 他グループの仲間に行ったことや分かったこと、考えたことを伝えたり、他グループの内容を聞いたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 調査グループ (全9グループ) カビ、キノコ、植物、動物、虫、水生昆虫、イモリ、鳥、土、 </div>	○他グループの発表を聞き、メモをする。 ○他グループはどんな「調査の仕方」や「課題の見つけ方」をしているのか、聞くよう指導する。
3 他グループの発表から、参考になったところなど感想を発表する。	◆他グループの発表を聞き、よかったことを発見できる。 記録分析、行動分析 イー②
4 グループごとに集まり、次回の調査活動での課題や、方法について考え計画を立てる。	◆友達の話をもとにして、次回の計画を立てている。 記録分析、行動分析 イー②

8. 授業の様子

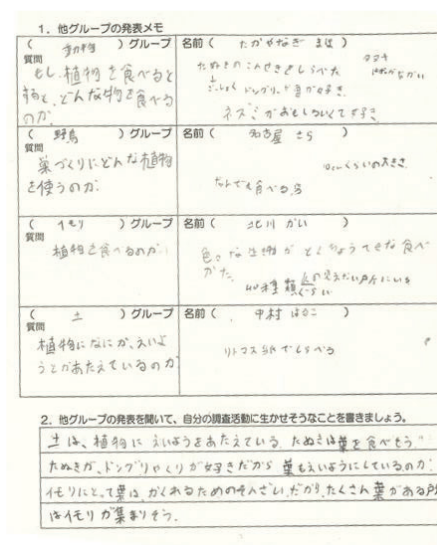
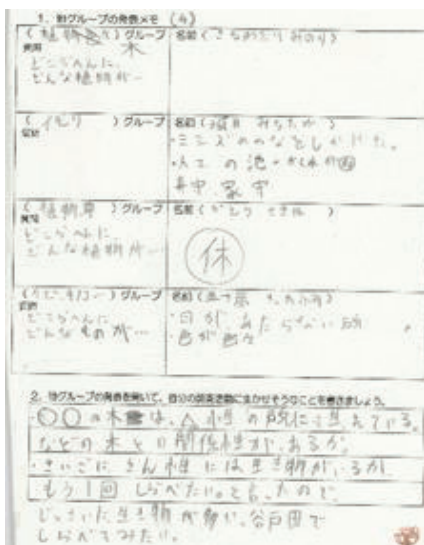


児童の自主的な話し合いの活動が中心となるため、めあてと活動の流れを明確に伝えた。

グループに分かれ、各自の課題の中間発表を行った。



振り返りでは、仲間との交流が、次回に活動に行かせたかどうかを中心に発表した。



ポートフォリオによる評価 ・ ・ 次回に生かすことを明確にして記述した。これも伝え合うことで、考えを整理し深めることにつながった。

()グループ

名前 ()

1. 他グループの発表メモ

()グループ 名前 ()
()グループ 名前 ()
()グループ 名前 ()
()グループ 名前 ()
()グループ 名前 ()
()グループ 名前 ()

2. 他グループの発表を聞いて、自分のグループの課題調査に生かせそうなことを書きましょう。

協議会記録

9月25日（水） 第5回校内研究会

1. 分科会（5年）

- ①提案1・2回目 児童が自由に調べる時間を確保
- ②自評 3回目の今回は、児童が多面的、多角的な視点で考えるような授業にしたい
反省 グループ発表の際、司会を立てることを明確にすべきであった。

2. 協議会（各分科会より）

（1）低学年

- ・最初のグループ交流でつながりを意識させた方が、新しい発見や視点につながりやすいのではないか
- ・最後のグループ交流の意識付けが必要ではないか

（2）中学年

- ・他チームとの交流が大切
- ・中間発表で完結してしまわないか
- ・「知る」→「生かす」まではいっていない。それは難しかったのでは。

（3）かがやき

- ・自己のテーマに関連付けられていた
- ・交流時にヒントを与えられた方がよかと
- ・体育館で行ったのはどうか

（4）高学年

- ・発表だけで終わっていた（交流がない）
- ・活動のつなげ方がもう一歩
- ・発表のつながりから更に広げたら
- ・調査のしかたについてもっと深めてほしかった

3. まとめ

- ・児童により、熱意の差を感じた。テーマをしっかりとわかっていない児童もいた。
- ・森というテーマが大きい。ずっとやっていると飽きてしまう。
- ・時間の取り方、スピード等、発表の仕方など、もう少し工夫が必要。
- ・ゴールイメージを更に明確にすべきだろう
- ・最後に個人の振り返りの時間が必要だろう

成果と課題

<成果>

- ・調査したことや教えてもらったことなどを分かりやすく仲間に伝えること。エ
- ・身に付けさせたい力を意識しながら単元を計画したり、入れ替えたりしたことで、思考する力や探究する力、里山に対する基本的な知識が身に付いた。ア・ウ
- ・様々な体験や学習を通して、地域の自然への愛着が高まり、「この自然を未来にも残したい」「自然を守っていききたい」と思うようになった。オ

<課題>

- ・探究活動によって深めた川に対する愛着を、日常生活の環境保全につなげること。カ
- ・自ら課題を見出すことはできたが、主体的な探究へつなげる道筋。オ
- ・「〇〇したい」という思いはもっているが、それを解決するための手立てや計画を立てること。ウ

<ポートフォリオ評価について>

年間にわたる長期の活動であった。各活動には必ず計画・実践・振り返りをシートにまとめ綴ってきた。中間発表でそれまでの活動のまとめ資料をつくり、発表した但其の際このファイルが大いに役立っていた。中間発表では一つの作品にまとめることで、それまでの体験や考えが整理されたり、その後の課題がより明確になったりした。それらはポートフォリオ評価として、大いに参考となった。

Ⅲ 研究の成果と課題

E S Dで育成を目指した能力・態度から成果と課題を振り返る。

- ア** 環境や社会の仕組みを理解する。
- イ** 学び方を身に付ける。
- ウ** 課題をつかみ、考え、判断し解決する。
- エ** 価値を見だし、思いや考えを伝える。
- オ** 人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる。
- カ** 協力してよりよい社会をつくろうと行動する。

<成果>

今年度も、地域での体験活動を意識した問題解決学習をどの学年も進めることができた。イ・ウ・エの力を伸ばすことにつなげることができた。また、そのことは、児童が、仲間と協力しながら課題を解決する姿を多く引き出し、地域への愛着や地域の一員としての自覚をもつことができた、そのことは、オ・カの力を伸ばすことにつなげることができた。アについては、体験を通して学んだことや自分の力で解決したことからの理解は深いと感じる。児童による差はあるが、生活科や総合的な学習の時間を楽しんでいると感じ、意欲的に取り組む児童は多く、学習対象への理解を深めていたと考える。

<課題>

社会の課題に対して、自分事として行動にまで結び付けて活動していくことが、高学年になるほど、難しくなってくる。より高いゴールを目指してオ・カの力を育てていくことが、E S Dにつながると考える。そのためには、より主体的な学びを高めていくことが必要であり、今後もそのための学習活動や評価の工夫を続けていくことが大切と考える。

<評価について>

今年度は、「児童の育ちをどう見取るか」という視点で「評価」を研究の柱の1つにした。成果としては、振り返りやポートフォリオを活用することで、学習の深まりが見られた点があげられる。今までの学習を改めて見つめることで、児童自身が自分の学の成果や成長を把握することができた。また、まとめの活動時にポートフォリオを活用することで、これまでの活動を整理し、再構成するような総合的な内容につなげることができた。

課題としては、児童の主体的な学びにつなげるための活用工夫を行なうことや、評価の仕方を検討することにある。校内で統一したものをつくる案などもだされているが、次年度へとつなげていきたいと考えている。

多摩市立連光寺小学校 平成 31 年度 ESD カレンダー(1学年)

単元を移動したものの赤太枠

【育成を目指す能力・能力】 知識・技能 **A** 環境や社会の仕組みを理解する。 思考・判断・表現等 **B** 課題をつかみ、考え、判断して解決する。 学びに向かう力 **C** 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる。 人間性等 **D** 協働してよりよい社会をつくろうと行動する。

A 学び方を身に付ける。 **B** 価値を見出し、思いや考えを伝える。 **C** 人間性等 **D** 協働してよりよい社会をつくろうと行動する。

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
算数	能力・態度 学習活動を育む	問題解決学習の基礎を身に付ける。 学習のねらいをつかむ→予想→自力解決→解決検討→まとめ→学習の振り返り											
国語	知識・技能を 支える単元	はなのみち	おおきくなったよ		うみのかくれんぼ		じどう車くらべ		しらせたいなみせたいな		てがみでしらせよう	いいこといっぱい 一年生	
生活		はるをみつけにいこう	こんなことをしたよ		なつともだちになろう		あきともだちになろう		ふゆとなかよしになろう		かぞくにこにこ大きくせん	もうすぐ2年生	
特別活動		がっこうたんけん			きれいにさいてねわたしのはな		きれいにさいてねわたしのはな		もっとさかせたいね				
特別活動		よりよい学校生活 がっこうだいすき					あさがお 自然愛護	いきているって 生命尊重	かぞくのために 家族愛・家庭生活の充実			みんなみんなありがとう 感謝	
特別活動		学校の きまり	学級会をしよう	雨の日の 過ごし方	ユニセフ募金		2年生ありがとう					6年生ありがとう	
音楽			校歌		うみ						ゆき	入学式の出し物	
図画工作							どうぶつの絵	秋の工作				1年生を迎える準備	
体育			表現										
行事		1年生を迎える会						学芸会				6年生を送る会	

ふれあいと表現
※学びをつなぐ・活かす

多摩市立連光寺小学校 平成 31 年度 ESD カレンダー (2 学年)

単元を移動したものの赤太枠

【育成を目指す能力・能力】 知識・技能 **A** 環境や社会の仕組みを理解する。 **B** 思考・判断・表現等 **C** 課題をつかみ、考え、判断して解決する。 **D** 学びに向かう力 **E** 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる。 **F** 人間性等 **G** 協働してよりよい社会をつくろうと行動する。

A 学び方を身に付ける。 **B** 思考・判断・表現等 **C** 課題をつかみ、考え、判断して解決する。 **D** 学びに向かう力 **E** 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる。 **F** 人間性等 **G** 協働してよりよい社会をつくろうと行動する。

		4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
学習活動 を育む 能力・態度	算数	問題解決学習の基礎を身に付ける。 学習のねらいをつかむ→予想→自力解決→解決検討→まとめ→学習の振り返り											
支える単元 知識・技能を	国語	今週のニュース ともさんはどこかな かんさつ名人になろう しかけカード おもちのつくり方 大ききなもの教えたい 楽しかったよ 2 年生											
ふれあいと表現 ※学びをつなぐ・活かす	生活	ときどきわくわく まちたんけん めざせ、やぎはかせ わんぱくタイム もっとなかよし まちたんけん 作ってためして まちのすてきを教えよう 春の花をさかせよう あしたへダッシュ											
	特別活動	「より良い学校生活」すてきな学校 「生命の尊さ」がんばれアヌーラ 「規則の尊重」黄色いベンチ 「自然愛護」かえってきたホテル 「生命の尊さ」生まれるということ 「規則の尊重」どんなきまりがあるかな 「自然愛護」やまめのやまちゃん 「善悪の判断」教室のできごと 「伝統文化の尊重」おせちのひみつ 「努力と強い意志」こうさつびができた 「個性の伸長」どうしてうまくいかないのかな 「感謝」1まいの絵											
	特別活動	学校図書館の使い方 ユニセフ集会 学級会をしよう											
	体育	表現											
	音楽	うたでともだちのわをひろげよう											
	図画工作	どうぶつさんと いっしょに カッターナイフ タワー コロコロ 大きくせん ときどきカード											
	行事	1 年生と遠足 たてわり班活動 学芸会 6 年生を送る会											

多摩市立連光寺小学校 平成 31 年度ESDカレンダー(3学年)

単元を移動したものの赤太枠

【育成を目指す能力・能力】 知識・技能 **A** 環境や社会の仕組みを理解する。 思考・判断・表現等 **B** 課題をつかみ、考え、判断して解決する。 学びに向かう力 **C** 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる。
I 学び方を身に付ける。 **E** 価値を見出し、思いや考えを伝える。 人間性等 **F** 協働してよりよい社会をつくろうと行動する。

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学習活動	外国語	英語に慣れ親しみ、積極的に伝え合おうとする態度を身に付ける。											
	算数	問題解決学習の基礎を身に付ける。 学習のねらいをつかむ→予想→自力解決→解決検討→まとめ→学習の振り返り											
	国語	話し合い方	百科事典の使い方				インタビューの仕方	初→中→終の文章構成	言語活動の基礎を身に付ける。			発表の仕方	
支える単元	社会	私たちの住む町			はたらく人と私たちの暮らし			かわってきた人々の暮らし					
	理科	自然の観察をしよう									おもちゃショーをひらこう		
総合	総合	蓮光寺調査隊					トライトライ「できることをやってみよう」						
	総合	多摩桜の丘学園と仲良くなろう											
ふれあいと表現	特別の教科	感動、畏敬の念まわりをみつめて	自然愛護 ヤゴ救出大作戦	伝統文化の尊重 ふろしき	勤労、公共の精神 マリーゴールド みんなのためにはたらく 係の仕事に取り組むときに			礼儀 あいさつ名人		親切、思いやり みんなが暮らしやすい町			
	特別活動												
	体育	ボッチャ											
	音楽	お囃子											
	図画工作	お囃子 お面作り											
	行事	学芸会で学びを生かす セリフや場面等を計画											

多摩市立連光寺小学校 平成 31 年度ESDカレンダー(4学年)

【児童に身に付けたい力】①人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる力②他者と協力し、活動する力③課題を見つめ、解決する力④自分の思いや考えを発信する力・行動する力

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
単元内容	英語	積極的にコミュニケーションをとる態度を身に付ける。											
	算数	問題解決学習の基礎を身に付ける。 学習のねらいをつかむ→予想→→自力解決→→解決検討→→まとめ→→学習のふりかえり											
	国語	よりよい話し合いをしよう	新聞を作ろう	自分の考えを伝えるために	聞き取りメモの工夫	アップとルーズで伝える	クラブ活動リーフレットを作ろう				のはらうた	わたしの研究レポート	
単元内容	社会	安全なくらし	住みよいくらし		郷土の発展につくす	わたしたちの東京都	ごみのしまつと再利用 下水の行方			わたしたちの東京都			
	理科	季節と生き物	天気と気温	季節と生き物		季節と生き物				季節と生き物	自然の中の水		
101	総合	流れをたどってみよう	多摩川で「発見」や「はてな」を見つけよう	多摩川博士になろう				多摩川とわたしたち					
	道徳		自然や崇高なもの 野鳥のすむ水辺	自然や崇高なもの あの手は、心の空高く	自然や崇高なもの 三河島のつる	集団や社会 社会のきまり	自然や崇高なもの たったひとつのたからもの						
※学びをつなぐ・活かす ふれあいと表現	特活	運動会について話し合おう								二分の一人式			
	体育	ソーラン節								育ちゆくからだわたし			
	音楽			リズムをつくろう									
	図工	ヤーレンソーラン っこいしょ	楽器づくり				廃材を利用しよう						
	行事	運動会											

多摩市立連光寺小学校 平成 31 年度 ESD カレンダー (5 学年)

単元を移動したものの赤太枠

育成を目指す能力・能力 知識・技能 **A** 環境や社会の仕組みを理解する。 **B** 思考・判断・表現等 **C** 課題をつかみ、考え、判断して解決する。 **D** 学びに向かう力 **E** 人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる。 **F** 人間性等 **G** 協働してよりよい社会をつくらうと行動する。

		4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
学習活動	外国語	積極的にコミュニケーションをとる態度を身に付ける。											
	算数	問題解決学習の基礎を身に付ける。学習のねらいをつかむ→予想→自力解決→解決検討→まとめ→学習の振り返り											
	国語	言語活動の基礎を身に付ける。			活動報告書		グラフや表を用いて書こう			明日をつくるわたしたち		すいせんします	
支える単元	社会	わたしたちの国土 (国土の地形)				生活と食糧生産 (米づくり)		生活と森林		生活と環境			
	理科	天気の変化		植物の発芽・成長		メダカの誕生		台風と天気		流れる水の働き			
	家庭					ごはんのみそ汁				物をいかして住みやすく			
総合	森林調査隊 自己の課題をつかむ・谷戸田植え					SATOYAMA 博士になろう 里山調査①②・稲刈り・精米等			里山未来①	里山の未来を考えよう② 竹炭づくり	生活総合発表会	地球温暖化	
※学びを活かす・深める	特別の教科 道徳	自然愛護 「一ふみ十年」		集団や社会との関わり 「ケンタの役割」		生命尊重 「その思いを受けついで」		伝統と文化の尊重 「曲げわっぱから伝わるもの」					
	特別活動	表現活動		ユニセフ集会		学級会 (音楽会・学芸会)				6年生からのバトン			
	音楽	連光寺小 We are the world (連光寺小 ESD 主題歌)											
	図画工作	春を感じて						自然の中で感じたことを		伝えたい気持ち			
	行事			集団宿泊									
	体育												
	図画工作												

単元を移動したものの赤太枠

【育成を目指す能力・能力】 知識・技能 **A** 環境や社会の仕組みを理解する。 **B** 思考・判断・表現等 **C** 課題をつかみ、考え、判断して解決する。 **D** 学びに向かう力 **E** 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる。
I 学び方を身に付ける。 **E** 価値を見出し、思いや考えを伝える。 **F** 人間性等 **F** 協働してよりよい社会をつくろうと行動する。

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
学習活動	外国語	積極的にコミュニケーションをとる態度を身に付ける。												
	算数	問題解決学習の基礎を身に付ける。 学習のねらいをつかむ→予想→自力解決→解決検討→まとめ→学習の振り返り												
	国語	考えを助ける図表 (思考ツール)	言語活動の基礎を身に付ける。				自然に学ぶ暮らし	未来がよりよくあるために(意見文)			今、私は、ぼくは (スピーチ)			
知識・技能を支える単元	社会						日本の歴史 近代工業 高度成長と環境問題	国際連合				世界の未来と日本の役割		
	理科	電気の性質とその利用	ものの燃え方	植物の成長と水の関わり								生き物と地球環境		
	家庭			夏をすずしくさわやかに				冬を明るく暖かく				持続可能な社会をめざして		
総合	総合	未来にやさしいエネルギー その1 ストップ地球温暖化 再生可能エネルギー大作戦						未来にやさしいエネルギー その2 SDGs から見つめる私たちの未来				発信		
	特別の教科 道徳	持続可能な社会とは?			命の旅		海のゆりかご アマモの再生			ブータンに日本の農業を				
※学びを生かす・深める	特別活動				ユニセフ集会				卒業文集 将来を見つめて		奉仕活動 卒業と私たち			
	体育	表現活動												
	音楽	連光寺小 We are the world (連光寺小 ESD 主題歌)												
	図画工作						ランプシェード					和太鼓地域への貢献		
	行事	八ヶ岳 森林学習					学芸会で学びを生かす セリフや場面等を計画				卒業関係メッセージ			

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212-014	川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～	多摩市立連光寺小学校 校長 棚橋 乾

主な実施箇所 多摩川中流域 関戸橋下流側及び支流大栗川合流点付近

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は1/50万～1/100万程度)



 : 枠線の中が活動場所



助成事業の主な実施箇所